

## 第 2 章

### 職場を含むいろいろな場面での、男女の

あり方をめぐるさまざまな問題について

(問 9 ~ 問 23)

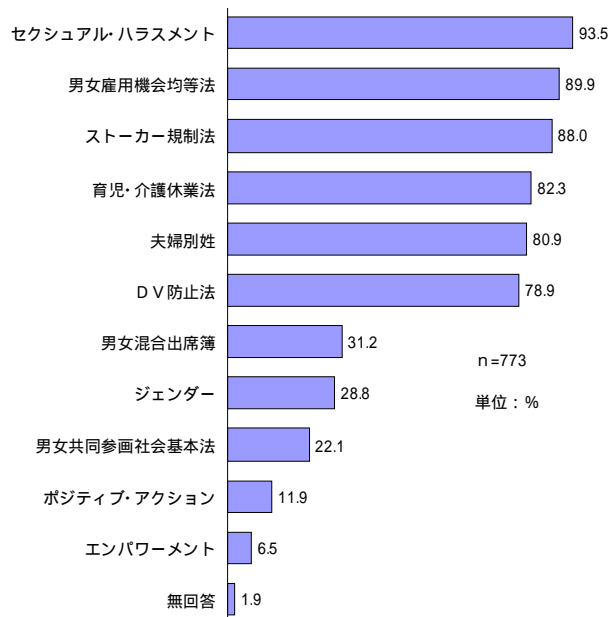
## 用語の認知度（問9）

問9 下に掲げる1～11の用語のうち、あなたが知っているものをすべて選び、数字を で囲んでください。

- |                         |               |
|-------------------------|---------------|
| 1 男女雇用機会均等法             | 2 育児・介護休業法    |
| 3 男女共同参画社会基本法           | 4 ストーカー規制法    |
| 5 DV（ドメスティック・バイオレンス）防止法 | 6 ジェンダー       |
| 7 男女混合出席簿               | 8 ポジティブ・アクション |
| 9 セクシュアル・ハラスメント         | 10 夫婦別姓       |
|                         | 11 エンパワーメント   |

	問9 用語の認知度												
	全体	男女雇用機会均等法	育児・介護休業法	男女共同参画社会基本法	ストーカー規制法	DV防止法	ジェンダー	男女混合出席簿	ポジティブ・アクション	セクシュアル・ハラスメント	夫婦別姓	エンパワーメント	無回答
合計	773 100.0	695 89.9	636 82.3	171 22.1	680 88.0	610 78.9	223 28.8	241 31.2	92 11.9	723 93.5	625 80.9	50 6.5	15 1.9
女性	445 100.0	393 88.3	375 84.3	91 20.4	389 87.4	359 80.7	141 31.7	167 37.5	53 11.9	417 93.7	359 80.7	27 6.1	10 2.2
男性	312 100.0	289 92.6	249 79.8	78 25.0	279 89.4	239 76.6	79 25.3	70 22.4	37 11.9	294 94.2	257 82.4	23 7.4	3 1.0

全体グラフ



「セクシュアル・ハラスメント」（93.5%）、「男女雇用機会均等法」（89.9%）、「ストーカー規制法」（88.0%）、「育児・介護休業法」（82.3%）、「夫婦別姓」（80.9%）の順に認知度が高い。

逆に、「男女共同参画社会基本法」は2割強、「ポジティブ・アクション」は1割強、「エンパワーメント」はわずか6.5%の人にしか知られていない。

## 男女の地位に関する平等意識（問10）

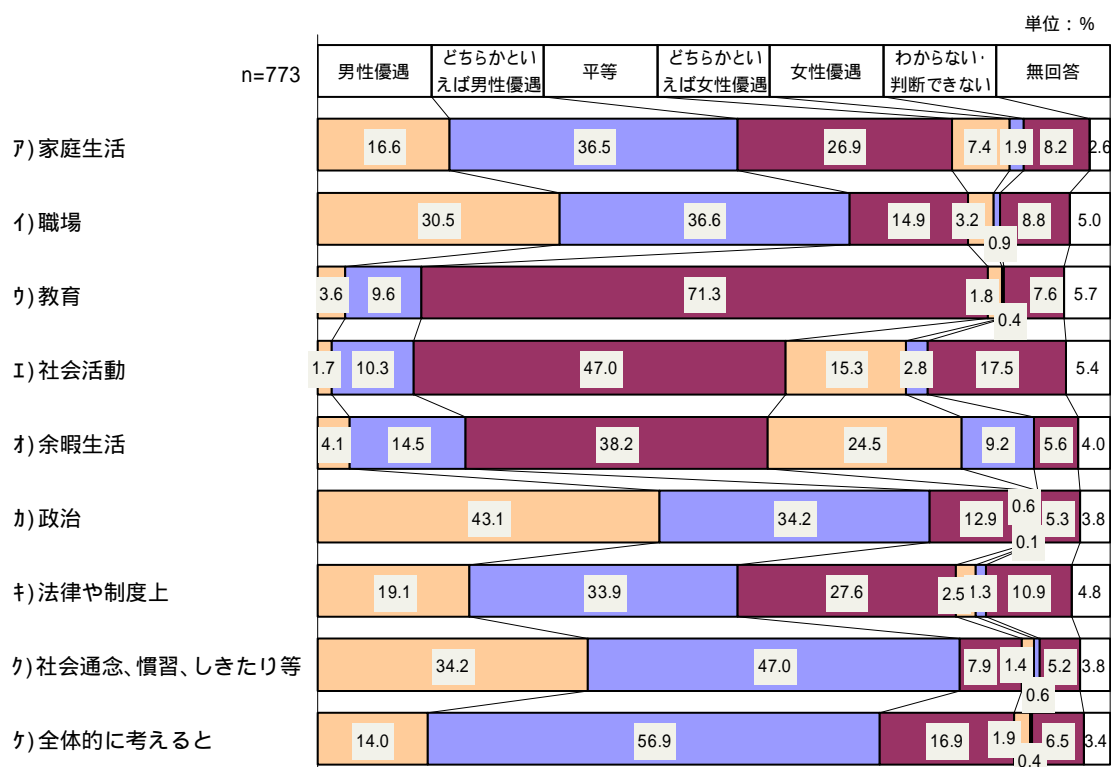
問10 あなたは、次に挙げる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

ア)～ケ)のそれぞれについて、1～6の中から**1つだけ**選び、表の該当欄の数字を  
で囲んでください。

ア) 家庭生活
イ) 職場
ウ) 教育（学校教育・教育を受ける機会も含めて）
エ) 社会活動（地域活動・ボランティア・PTAなど）
オ) 余暇生活（楽しむ機会や楽しみ方）
カ) 政治（の場）
キ) 法律や制度上
ク) 社会通念、慣習、しきたりなど
ケ) 全体的に考えると

- 1 男性の方が優遇
- 2 どちらかといえば男性の方が優遇
- 3 平等
- 4 どちらかといえば女性の方が優遇
- 5 女性の方が優遇
- 6 わからない・判断できない

	全体	男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇	わからない・判断できない	無回答
問10 地位の平等意識ア)家庭生活	773	128	282	208	57	15	63	20
	100.0	16.6	36.5	26.9	7.4	1.9	8.2	2.6
イ)職場	773	236	283	115	25	7	68	39
	100.0	30.5	36.6	14.9	3.2	0.9	8.8	5.0
ウ)教育	773	28	74	551	14	3	59	44
	100.0	3.6	9.6	71.3	1.8	0.4	7.6	5.7
エ)社会活動	773	13	80	363	118	22	135	42
	100.0	1.7	10.3	47.0	15.3	2.8	17.5	5.4
オ)余暇生活	773	32	112	295	189	71	43	31
	100.0	4.1	14.5	38.2	24.5	9.2	5.6	4.0
カ)政治（の場）	773	333	264	100	5	1	41	29
	100.0	43.1	34.2	12.9	0.6	0.1	5.3	3.8
キ)法律や制度上	773	148	262	213	19	10	84	37
	100.0	19.1	33.9	27.6	2.5	1.3	10.9	4.8
ク)社会通念等	773	264	363	61	11	5	40	29
	100.0	34.2	47.0	7.9	1.4	0.6	5.2	3.8
ケ)全体的に	773	108	440	131	15	3	50	26
	100.0	14.0	56.9	16.9	1.9	0.4	6.5	3.4



「教育」、「社会活動」、「余暇生活」を除いて全般的に「男性の方が優遇」「どちらかといえば男性の方が優遇」と思っている人が多く、特に「社会通念、慣習、しきたりなど」や「政治（の場）」、「職場」などの分野では顕著になっている。

「全体的に考えると」でも、「どちらかといえば男性の方が優遇」が56.9%と過半数を占めており、多くなっている。

反対に、「余暇生活」の分野では「女性の方が優遇」と「どちらかといえば女性の方が優遇」を合わせた割合が33.7%に達し、「平等」の38.2%に迫る割合を占めている。

また、「教育」の分野では「平等」という回答が圧倒的に多く、7割強を占めている。

【男女別】

	全体	問10 7)家庭生活						
		男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇	わからない・判断できない	無回答
合計	773 100.0	128 16.6	282 36.5	208 26.9	57 7.4	15 1.9	63 8.2	20 2.6
女性	445 100.0	83 18.7	178 40.0	102 22.9	26 5.8	7 1.6	39 8.8	10 2.2
男性	312 100.0	40 12.8	99 31.7	104 33.3	31 9.9	8 2.6	23 7.4	7 2.2

全体・女性では「どちらかといえば男性の方が優遇」という意見が最も多いが、男性では「平等」という意見が最も多い。

	全体	問10 1)職場						
		男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇	わからない・判断できない	無回答
合計	773 100.0	236 30.5	283 36.6	115 14.9	25 3.2	7 0.9	68 8.8	39 5.0
女性	445 100.0	147 33.0	159 35.7	56 12.6	11 2.5	4 0.9	47 10.6	21 4.7
男性	312 100.0	82 26.3	120 38.5	59 18.9	13 4.2	3 1.0	21 6.7	14 4.5

全体、女性・男性とも「どちらかといえば男性の方が優遇」、「男性の方が優遇」という意見がそれぞれ第1、2位となっている。また、それらの選択肢の割合を合計すると、全体および女性、男性でそれぞれ67.1%、68.7%、64.8%に達する。

	全体	問10 9)教育						
		男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇	わからない・判断できない	無回答
合計	773 100.0	28 3.6	74 9.6	551 71.3	14 1.8	3 0.4	59 7.6	44 5.7
女性	445 100.0	13 2.9	49 11.0	305 68.5	6 1.3	1 0.2	44 9.9	27 6.1
男性	312 100.0	13 4.2	22 7.1	242 77.6	6 1.9	2 0.6	14 4.5	13 4.2

全体、男女別とも「平等」という回答が最も多く、7割弱～8割弱を占めているが、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇」という回答も11.0%と、1割強を占めている。

	全体	問10 I)社会活動						
		男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇	わからない・判断できない	無回答
合計	773 100.0	13 1.7	80 10.3	363 47.0	118 15.3	22 2.8	135 17.5	42 5.4
女性	445 100.0	8 1.8	55 12.4	184 41.3	66 14.8	12 2.7	93 20.9	27 6.1
男性	312 100.0	2 0.6	24 7.7	173 55.4	51 16.3	10 3.2	41 13.1	11 3.5

全体、女性・男性ともに「平等」とする回答がいちばん多いが、第2位は、全体と女性では「わからない・判断できない」であるのに対し、男性では「どちらかといえば女性の方が優遇」となっている。

	全体	問10 ㊦)余暇生活						
		男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇	わからない・判断できない	無回答
合計	773 100.0	32 4.1	112 14.5	295 38.2	189 24.5	71 9.2	43 5.6	31 4.0
女性	445 100.0	23 5.2	74 16.6	156 35.1	112 25.2	35 7.9	29 6.5	16 3.6
男性	312 100.0	7 2.2	37 11.9	134 42.9	74 23.7	35 11.2	14 4.5	11 3.5

全体、男女別ともいちばん多いのが「平等」とした回答で、それに次いで多いのが「どちらかといえば女性の方が優遇」である。

	全体	問10 か)政治						
		男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇	わからない・判断できない	無回答
合計	773 100.0	333 43.1	264 34.2	100 12.9	5 0.6	1 0.1	41 5.3	29 3.8
女性	445 100.0	228 51.2	142 31.9	36 8.1	0 0.0	0 0.0	23 5.2	16 3.6
男性	312 100.0	99 31.7	117 37.5	63 20.2	5 1.6	1 0.3	18 5.8	9 2.9

全体・女性では「男性の方が優遇」、「どちらかといえば男性が優遇」がそれぞれ1、2番めに多い回答だが、男性ではそれらの順位が逆転している。また、女性では「男性の方が優遇」の回答が、単独で過半数を占めている。

	全体	問10 き)法律や制度上						
		男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇	わからない・判断できない	無回答
合計	773 100.0	148 19.1	262 33.9	213 27.6	19 2.5	10 1.3	84 10.9	37 4.8
女性	445 100.0	111 24.9	153 34.4	88 19.8	6 1.3	4 0.9	58 13.0	25 5.6
男性	312 100.0	33 10.6	105 33.7	123 39.4	13 4.2	6 1.9	24 7.7	8 2.6

第1、2位の回答は、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇」、「平等」、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇」、「男性の方が優遇」、男性では「平等」、「どちらかといえば男性の方が優遇」となっている。性別によって結果が分かれていることがみてとれる。

	全体	問10 け)社会通念、慣習、しきたり等						
		男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇	わからない・判断できない	無回答
合計	773 100.0	264 34.2	363 47.0	61 7.9	11 1.4	5 0.6	40 5.2	29 3.8
女性	445 100.0	184 41.3	187 42.0	22 4.9	9 2.0	0 0.0	25 5.6	18 4.0
男性	312 100.0	75 24.0	169 54.2	39 12.5	2 0.6	5 1.6	14 4.5	8 2.6

全体、男女別とも1、2番めに多い回答は順に「どちらかといえば男性の方が優遇」、「男性の方が優遇」であるが、女性ではこれら2つの選択肢の割合の差は0.7ポイントと、ごく僅差になっている。

また、2つの選択肢を合わせた割合は、全体 81.2%、女性 83.3%、男性 78.2%と、いずれも8割前後に達している。

	全体	問10 ケ)全体的に考えると						
		男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇	わからない・判断できない	無回答
合計	773 100.0	108 14.0	440 56.9	131 16.9	15 1.9	3 0.4	50 6.5	26 3.4
女性	445 100.0	77 17.3	269 60.4	45 10.1	5 1.1	1 0.2	32 7.2	16 3.6
男性	312 100.0	28 9.0	163 52.2	85 27.2	10 3.2	2 0.6	17 5.4	7 2.2

最も多く選ばれている選択肢は、全体、女性・男性とも「どちらかといえば男性の方が優遇」である。特に女性では、約60%に達している。

### 【前回調査との比較】

前回調査の結果は、次のページに示すグラフのとおりであった。

ここから、以下のようなことが読み取れる。

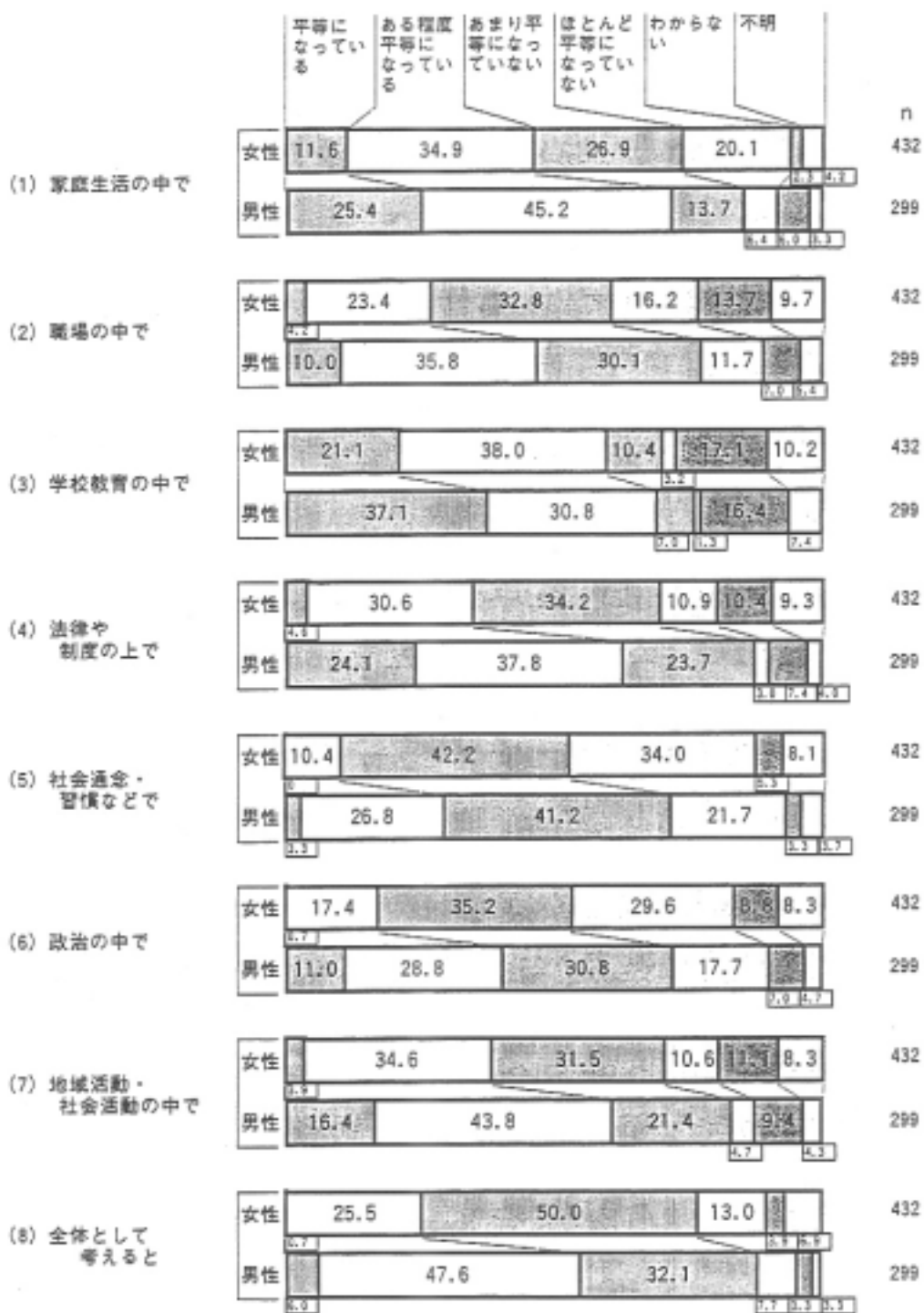
すべての分野において、女性の方が「平等でない」という意識が高い。

- (1) 家庭生活は、「平等と感じる」(「平等になっている」+「ある程度平等になっている」)のは女性 46.5%、男性 70.6%と、男性が高い。
- (2) 職場は、「平等と感じる」のは女性 27.6%、男性 45.8%と、男性が高い。
- (3) 学校教育は、「平等と感じる」のは女性 59.1%、男性 67.9%と、男性が高い。また、その中でも「平等になっている」は男性が、「ある程度平等」は女性が、それぞれ高くなっている。
- (4) 法律や制度の上は、「平等と感じる」のは女性 35.2%、男性 61.9%となっており、その差が大きい。
- (5) 社会通念・習慣は、「平等と感じる」のは女性 10.4%、男性 30.1%と、どちらも項目中で最も低い。また、「ある程度平等」は男性が、「ほとんど平等でない」は女性が、それぞれ高く、その差が大きい。
- (6) 政治は、「平等と感じる」のは女性 18.1%、男性 39.8%と、男性が高

い。

(7) 地域活動・社会活動は、「平等と感じる」のは女性 38.5%、男性 60.2%と、男性が高い。

(8) 全体は、「平等と感じる」のは女性 26.2%、男性 53.6%と、男性が高い。



(%)

質問のたずね方が異なるため留意が必要ではあるが、例えば前回調査の結果のうち「家庭生活」をみると「平等と感じる」のは男性が高い、ということが分かる。今回の調査結果でもそのまま同じことが言え（選択肢「平等」の割合…女性 22.9%、男性 33.3%）傾向は変わっていないということになる。このように前回調査結果の特徴（１）～（８）の傾向は、今回の結果でもほとんど変わらずみられることが分かる。

#### 今回調査における男女の地位に関する「平等」意識（再掲）

- （１）家庭生活では、男性では「平等」という意見が最も多いが、全体・女性では「どちらかといえば男性の方が優遇」が最も多い。
- （２）職場では、「平等」になっていると思うのは女性 12.6%、男性 18.9%で、男性のポイントの方が高い。
- （３）教育では、「平等」は女性で 68.5%、男性で 77.6%で、男性の方が 9.1ポイント高い。
- （４）法律や制度上では、「平等」は女性 19.8%、男性 39.4%と、20ポイント近くの大きな差がみられる。
- （５）社会通念、慣習、しきたり等では、「平等」としたのは女性 4.9%、男性 12.5%で、どちらも質問項目中で最も低い。
- （６）政治では、「平等」は女性 8.1%、男性 20.2%と、男性が高い。
- （７）社会活動では、「平等」としたのは女性 41.3%、男性 55.4%と、男性が高い。
- （８）全体では、「平等」になっていると思うのは女性 10.1%、男性 27.2%と、男性のポイントが高い。

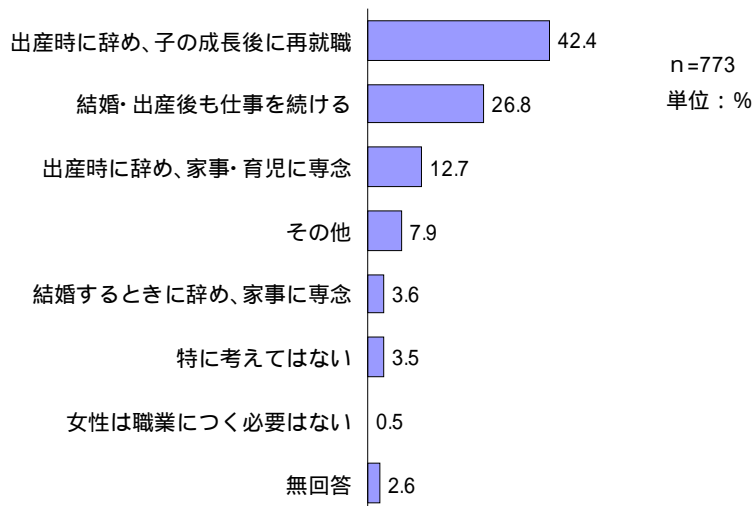
## 女性が職業を持つことについての意識（問11）

問11 女性が職業を持つことについて、あなたの考えに近いものを下の1～7の中から  
1つだけ選び、数字を で囲んでください。

- 1 結婚して子どもができて、職業を持ち続けるのがよい
- 2 子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長した後再び職業につくのがよい
- 3 子どもが生まれるまでは職業につき、子どもが生まれた後は家事や育児に専念するのがよい
- 4 結婚するまでは職業について、結婚した後は家事に専念するのがよい
- 5 女性は職業につく必要はない
- 6 その他 具体的に（ ）
- 7 特に考えはない

### 問11 女性が職業を持つこと(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	結婚・出産後も仕事を続ける	207	26.8
2	出産時に辞め、子の成長後に再就職	328	42.4
3	出産時に辞め、家事・育児に専念	98	12.7
4	結婚するときに辞め、家事に専念	28	3.6
5	女性は職業につく必要はない	4	0.5
6	その他	61	7.9
7	特に考えはない	27	3.5
	無回答	20	2.6
	全体	773	100.0



最も多いのは「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再就職するのがよい」という回答で、42.4%を占めている。次に多いのは「子どもができて、職業を持ち続けるのがよい」で、全体のおよそ4分の1を占める。

## 【男女別】

	全体	結婚・出産後も仕事を続ける	出産時に辞め、子どもの成長後に再就職	出産時に辞め、家事・育児に専念	結婚するときに辞め、家事に専念	女性は職業につく必要はない	その他	特に考えはない	無回答
合計	773 100.0	207 26.8	328 42.4	98 12.7	28 3.6	4 0.5	61 7.9	27 3.5	20 2.6
女性	445 100.0	126 28.3	188 42.2	46 10.3	17 3.8	1 0.2	37 8.3	19 4.3	11 2.5
男性	312 100.0	76 24.4	132 42.3	50 16.0	11 3.5	3 1.0	24 7.7	8 2.6	8 2.6

性別による大きな違いはみられないが、女性では「子どもができて、職業を持ち続けるのがよい」とする回答の比率が男性よりも 3.9 ポイント高く、「出産時に職業を辞め、家事や育児に専念するのがよい」では反対に男性のポイントが女性を 5.7 ポイント上回っている。

## 【年齢別】

	全体	結婚・出産後も仕事を続ける	出産時に辞め、子どもの成長後に再就職	出産時に辞め、家事・育児に専念	結婚するときに辞め、家事に専念	女性は職業につく必要はない	その他	特に考えはない	無回答
合計	773 100.0	207 26.8	328 42.4	98 12.7	28 3.6	4 0.5	61 7.9	27 3.5	20 2.6
20歳未満	11 100.0	3 27.3	5 45.5	0 0.0	2 18.2	0 0.0	0 0.0	1 9.1	0 0.0
20～24歳	31 100.0	11 35.5	11 35.5	0 0.0	2 6.5	2 6.5	4 12.9	0 0.0	1 3.2
25～29歳	52 100.0	23 44.2	15 28.8	5 9.6	1 1.9	0 0.0	6 11.5	0 0.0	2 3.8
30～34歳	72 100.0	24 33.3	29 40.3	5 6.9	2 2.8	0 0.0	6 8.3	3 4.2	3 4.2
35～39歳	71 100.0	20 28.2	29 40.8	3 4.2	0 0.0	0 0.0	13 18.3	5 7.0	1 1.4
40～44歳	51 100.0	10 19.6	23 45.1	5 9.8	1 2.0	0 0.0	11 21.6	1 2.0	0 0.0
45～49歳	54 100.0	17 31.5	20 37.0	6 11.1	2 3.7	0 0.0	7 13.0	1 1.9	1 1.9
50～54歳	68 100.0	26 38.2	30 44.1	4 5.9	1 1.5	0 0.0	3 4.4	2 2.9	2 2.9
55～59歳	100 100.0	22 22.0	49 49.0	16 16.0	3 3.0	0 0.0	3 3.0	4 4.0	3 3.0
60～64歳	89 100.0	17 19.1	48 53.9	12 13.5	3 3.4	1 1.1	1 1.1	5 5.6	2 2.2
65～69歳	79 100.0	19 24.1	27 34.2	22 27.8	4 5.1	0 0.0	3 3.8	3 3.8	1 1.3
70歳以上	88 100.0	14 15.9	40 45.5	19 21.6	7 8.0	1 1.1	2 2.3	2 2.3	3 3.4

「出産時に職業を辞め、家事や育児に専念するのがよい」という回答は高年齢層で多く、65～69歳で27.8%、70歳以上では21.6%を占めている。



「仕事（職業）についてみて」（36.0%）という回答が最も多い。  
「親の影響」（21.3%）、「気が付いたらそういうものだと思っていた」（21.1%）がそれに次いで多い。

### 【男女別】

	全体	親の影響	先生の影 響	地域活動 などの社 会参加を 通じて	学習活動 を通じて	友人・知 人に影響 を受けて	仕事につ いてみて	パート ナーの影 響で	マスメ ディアの 影響で	その他	そういう ものだと 思ってい た	無回答
合計	773 100.0	165 21.3	4 0.5	81 10.5	56 7.2	88 11.4	278 36.0	79 10.2	61 7.9	108 14.0	163 21.1	32 4.1
女性	445 100.0	94 21.1	2 0.4	52 11.7	28 6.3	60 13.5	170 38.2	34 7.6	25 5.6	72 16.2	84 18.9	16 3.6
男性	312 100.0	68 21.8	2 0.6	28 9.0	25 8.0	25 8.0	102 32.7	44 14.1	35 11.2	34 10.9	77 24.7	15 4.8

女性・男性とも最も多いのは「仕事についてみて」で共通しているが、第2位は、女性では「親の影響」、男性では「気が付いたらそういうものだと思っていた」となっている。

女性よりも男性の方が、無意識のうちに女性の職業に関する意識が形成されていることがうかがえる。

女性では男性に比べて「友人・知人に影響を受けて」が占める割合が大きく、男性よりも5.5ポイント高くなっている。

女性・男性とも「先生の影響」とした回答は0.5%前後で、きわめて少ない。

### 【まとめ】

\* 女性が職業を持つことについての意識は、「仕事（職業）についてみて」形成された、という回答が女性・男性とも最も多い。  
女性では「親の影響」を受けて、という人の割合が男性よりも大きい。

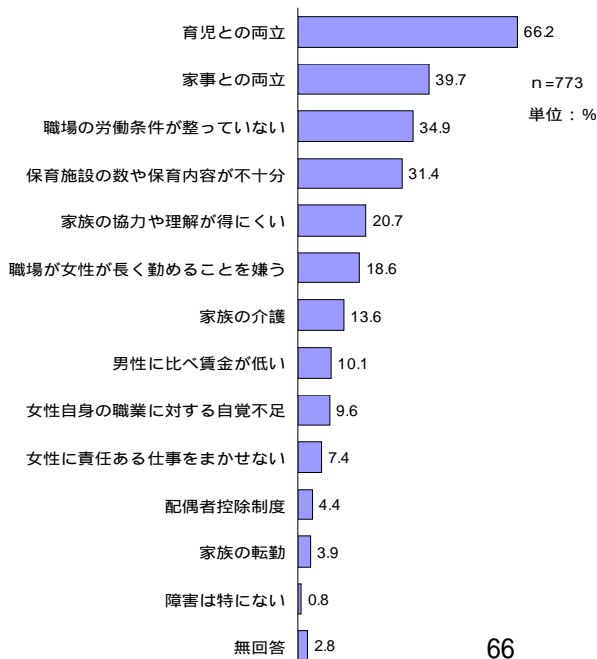
## 女性が職業を持つ上での障害（問13）

問13 女性が職業を持ち、またそれを続けていく上で、特に大きな障害となっていると思うものを、下の1～13の中から**3つ以内**で選び、数字を で囲んでください。

- 1 家事との両立
- 2 育児との両立
- 3 夫など家族の協力や理解が得にくいこと
- 4 育児休業制度など職場の労働条件が整っていないこと
- 5 職場が結婚・出産した女性（女性が長く勤めること）を嫌う傾向があること
- 6 職場が女性に責任ある仕事をまかせないこと
- 7 男性に比べ賃金が低いこと
- 8 配偶者控除制度があること
- 9 保育施設の数や保育内容が十分でないこと
- 10 高齢者や病人など家族の介護があること
- 11 女性自身の職業に対する自覚が不足していること
- 12 自分やパートナーなど家族の転勤
- 13 障害は特にない

問13 女性が働く上での障害(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	家事との両立	307	39.7
2	育児との両立	512	66.2
3	家族の協力や理解が得にくい	160	20.7
4	職場の労働条件が整っていない	270	34.9
5	職場が女性が長く勤めることを嫌う	144	18.6
6	女性に責任ある仕事をまかせない	57	7.4
7	男性に比べ賃金が低い	78	10.1
8	配偶者控除制度	34	4.4
9	保育施設の数や保育内容が不十分	243	31.4
10	家族の介護	105	13.6
11	女性自身の職業に対する自覚不足	74	9.6
12	家族の転勤	30	3.9
13	障害は特にない	6	0.8
	無回答	22	2.8
	全体	773	100.0



「育児との両立」(66.2%)、「家事との両立」(39.7%)、「職場の労働条件が整っていないこと」(34.9%)、「保育施設の数や保育内容が十分でないこと」(31.4%)の順で多く回答されている。

## 【男女別】

	全体	家事との 両立	育児との 両立	家族の協 力や理解 が得にく い	職場の労 働条件が 整ってい ない	職場が女 性が長く 勤めるこ とを嫌う	女性に責 任ある仕 事をまか せない	男性に比 べ賃金が 低い	配偶者控 除制度	保育施設 の数や保 育内容が 不十分	家族の介 護
合計	773 100.0	307 39.7	512 66.2	160 20.7	270 34.9	144 18.6	57 7.4	78 10.1	34 4.4	243 31.4	105 13.6
女性	445 100.0	166 37.3	279 62.7	108 24.3	156 35.1	95 21.3	28 6.3	45 10.1	21 4.7	144 32.4	74 16.6
男性	312 100.0	136 43.6	224 71.8	49 15.7	109 34.9	48 15.4	29 9.3	28 9.0	13 4.2	93 29.8	31 9.9

女性自身 の職業に 対する自 覚不足	家族の転 勤	障害は特 にない	無回答
74 9.6	30 3.9	6 0.8	22 2.8
38 8.5	17 3.8	3 0.7	11 2.5
35 11.2	10 3.2	3 1.0	9 2.9

全体、女性・男性とも、第1位から第7位までの選択肢の内容は共通している。

第5位の「夫など家族の理解や協力が得にくいこと」では、女性24.3%、男性15.7%と、女性が男性より8.6ポイント高くなっている。

## 【前回調査との比較】

前回調査の結果は、下の表のとおりであった。

育児との両立	53.3%	無回答	14.8%
家事との両立	46.0%	家族の協力や理解が得にくい	14.6%
高齢者や病人の介護	25.1%	転勤	8.3%
男性の意識改革	22.0%	配偶者控除制度	7.9%
結婚・出産に対する職場の姿勢	20.7%	男女の賃金差	7.7%
女性自身の労働に対する自覚不足	19.9%	その他	1.3%

今回の調査でも、第1、2位の項目は変わっていないが、第3、4位には新設の選択肢が入り、前回第3位だった「高齢者や病人の介護」は7位に後退している。今回「家族の協力や理解が得にくい」が第5位へ上昇した。

## 現在働いている理由（問 14）

問 14 あなたが現在働いているのは、どのような理由からでしょうか。下の 1～13 の中から最も近いものを**3つ以内**で選び、数字を で囲んでください。

- |                          |                |
|--------------------------|----------------|
| 1 生計を維持するため（家族を養うため）     | 2 家計の足しにするため   |
| 3 自分で自由に使えるお金を得るため       | 4 生きがいを得るため    |
| 5 自分の能力・技能・資格をいかすため      | 6 視野を広げるため     |
| 7 友人を得るため                | 8 子どもの教育費のため   |
| 9 老後に備えて貯蓄するため           |                |
| 10 社会とのつながりを得る・社会に貢献するため |                |
| 11 働くのが当然だから             | 12 時間的に余裕があるから |
| 13 家業であるから               |                |

	全体	生計を維持するため	家計の足しにするため	自分で自由に使えるお金を得るため	生きがいを得るため	能力・技能・資格をいかすため	視野を広げるため	友人を得るため	子どもの教育費のため	老後に備えて貯蓄するため	社会に貢献するため
合計	478 100.0	259 54.2	62 13.0	112 23.4	58 12.1	119 24.9	55 11.5	4 0.8	33 6.9	83 17.4	124 25.9
女性	239 100.0	85 35.6	48 20.1	79 33.1	26 10.9	67 28.0	42 17.6	3 1.3	20 8.4	36 15.1	64 26.8
男性	233 100.0	173 74.2	13 5.6	31 13.3	32 13.7	50 21.5	13 5.6	1 0.4	12 5.2	46 19.7	60 25.8

	働くのが当然だから	時間的に余裕があるから	家業であるから	無回答
	111 23.2	19 4.0	33 6.9	35 7.3
	48 20.1	15 6.3	19 7.9	13 5.4
	61 26.2	4 1.7	12 5.2	22 9.4

男性では「生計を維持するため」という回答が群を抜いて多く 4 分の 3 近くを占めているが、女性では「生計を維持するため」という回答が最も多いものの（35.6%）、「自分で自由に使えるお金を得るため」（33.1%）、「能力・技能・資格をいかすため」（28.0%）、「社会とのつながりを得る・社会に貢献するため」（26.8%）などが僅差で続いている。女性では、働く理由が多様化していると言える。

「視野を広げるため」という回答は女性で多く、男性の 3 倍以上のポイントとなっている。「老後に備えて貯蓄するため」という回答は反対に男性でポイントが高くなっている。

## 【前回調査との比較】

前回調査の結果は、下の表のとおりであった。

生活のため（家族を養うため）	女性	34.6%
	男性	82.3%
生活費を補助するため	女性	30.4%
	男性	5.7%
働くことが生きがいだから	女性	12.6%
	男性	19.6%
家業だから	女性	7.9%
	男性	2.4%
自分の資格や能力を生かすため	女性	27.1%
	男性	18.2%
自由になるお金を得るため	女性	33.6%
	男性	20.6%
子どもの教育費のため	女性	8.9%
	男性	10.0%
老後に備えて貯蓄するため	女性	18.7%
	男性	27.8%
視野を広げるため	女性	21.0%
	男性	11.0%
友達を得るため	女性	2.8%
	男性	2.9%
社会とのつながりを得るため	女性	43.5%
	男性	23.9%
不明	女性	4.7%
	男性	5.7%

前回調査では女性の第1位は「社会とのつながりを得るため」であったが、今回はこの選択肢は第4位に後退し、ポイントもかなり下がっている。代わって「生計を維持するため」が前回の第2位から第1位に上昇している。

また「自分の能力・技能・資格を生かすため」が前回の第5位から第3位へと順位を上げている。

## 職場における差別等（問15）

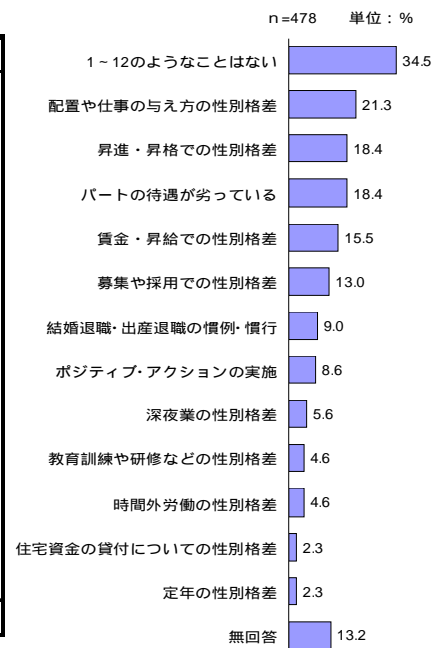
問15 あなたの職場では、下に掲げるようなことがありますか。

該当するものをすべて選び、数字を で囲んでください。

- 1 募集や採用で性別による格差がある
- 2 賃金・昇給で性別による格差がある
- 3 昇進・昇格で性別による格差がある
- 4 配置や仕事の与え方に性別による格差がある
- 5 教育訓練や研修などに性別による格差がある
- 6 住宅資金の貸付に性別による格差がある
- 7 結婚退職や出産退職の慣例・慣行がある、または居づらい雰囲気がある
- 8 定年に性別による格差がある
- 9 正社員と同じような仕事をしているのにパートの待遇が劣っている
- 10 職場が積極的に女性の登用を図っている（ポジティブ・アクションの実施）
- 11 深夜業に性別による格差がある
- 12 時間外労働に性別による格差がある
- 13 1～12で挙げられたようなことはない

### 問15 職場の性別等による格差(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	募集や採用での性別格差	62	13.0
2	賃金・昇給での性別格差	74	15.5
3	昇進・昇格での性別格差	88	18.4
4	配置や仕事の与え方の性別格差	102	21.3
5	教育訓練や研修などの性別格差	22	4.6
6	住宅資金の貸付についての性別格差	11	2.3
7	結婚退職・出産退職の慣例・慣行	43	9.0
8	定年の性別格差	11	2.3
9	パートの待遇が劣っている	88	18.4
10	ポジティブ・アクションの実施	41	8.6
11	深夜業の性別格差	27	5.6
12	時間外労働の性別格差	22	4.6
13	1～12のようなことはない	165	34.5
	無回答	63	13.2
	非該当	295	
	全体	478	100.0



例示されたような格差や差別は「ない」とした回答が最も多く34.5%を占める一方、「配置や仕事の与え方に性別による格差がある」(21.3%)、「昇進・昇格で性別による格差がある」、正社員に比べ「パートの待遇が劣っている」(ともに18.4%)などの格差や差別を挙げる回答もみられる。また、職場がポジティブ・アクションを実施している、という回答は、8.6%にのぼっている。

## 【男女別】

	全体	募集や採用での性別格差	賃金・昇給での性別格差	昇進・昇格での性別格差	配置や仕事の与え方の性別格差	教育訓練や研修などの性別格差	住宅資金の貸付についての性別格差	結婚退職・出産退職の慣例・慣行	定年の性別格差	パートの待遇が劣っている
合計	478 100.0	62 13.0	74 15.5	88 18.4	102 21.3	22 4.6	11 2.3	43 9.0	11 2.3	88 18.4
女性	239 100.0	24 10.0	38 15.9	41 17.2	44 18.4	10 4.2	5 2.1	23 9.6	5 2.1	55 23.0
男性	233 100.0	36 15.5	34 14.6	46 19.7	57 24.5	11 4.7	5 2.1	20 8.6	6 2.6	31 13.3

ポジティブ・アクションの実施	深夜業の性別格差	時間外労働の性別格差	1~12のようなことはない	無回答
41 8.6	27 5.6	22 4.6	165 34.5	63 13.2
21 8.8	8 3.3	6 2.5	77 32.2	29 12.1
20 8.6	19 8.2	15 6.4	88 37.8	32 13.7

女性・男性ともに第1位は「ない」という回答であるが、男性の第2位が「配置や仕事の与え方の性別格差」を挙げているのに対し、女性では「パートの待遇が劣っている」が2位になっている。

男性では女性に比べて「深夜業」、「時間外労働」、「募集や採用」、「配置や仕事の与え方」に性別格差がある、とする回答の割合が大きい。

## 【前回調査との比較】

前回調査の結果は、下の表のとおりであった。

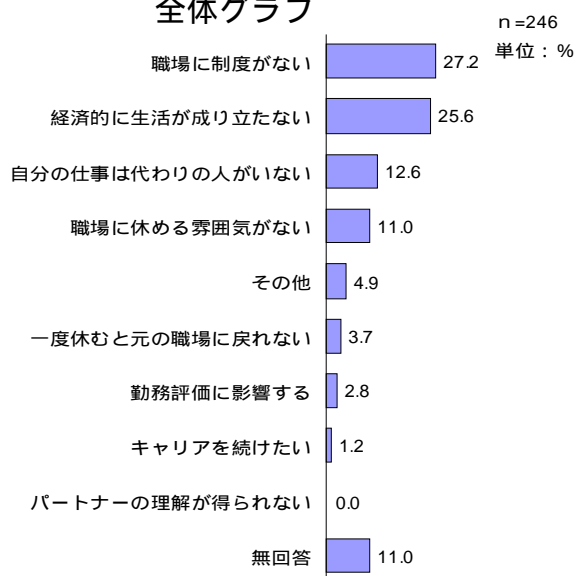
特に男女差別はない	36.6%	その他	11.0%
男性に比べ、女性の昇格が遅い	30.8%	女性は補助的な仕事のみである	10.6%
男性に比べ、女性の採用が少ない	23.4%	女性の上司を気にする人がいる	9.7%
同期入社した男性と賃金や昇級の差	20.7%	意思決定の場に女性が参加できない	9.4%
女性の寿退職の習慣・雰囲気がある	13.3%	教育訓練内容での男女差がある	8.5%
就けないポスト・女性だけの部署がある	13.1%	セクシャル・ハラスメント(性的嫌がらせ)がある	7.1%
無回答	12.0%	子育て・介護の理由での不当な扱い	2.3%

「特に男女差別はない」とした回答が35%前後で第1位である点は変わっておらず、また前回第2位に入っていた「男性に比べ、女性の昇格が遅い」についても、同様の内容の選択肢が引き続き上位(第3位)に入っている。



	全体	経済的に生活が成り立たない	職場に制度がない	職場に休める雰囲気がない	勤務評価に影響する	自分の仕事は代わりの人がいない	一度休むと元の職場に戻れない	キャリアを続けたい	パートナーの理解が得られない	その他	無回答
合計	246 100.0	63 25.6	67 27.2	27 11.0	7 2.8	31 12.6	9 3.7	3 1.2	0 0.0	12 4.9	27 11.0
女性	122 100.0	18 14.8	47 38.5	16 13.1	3 2.5	13 10.7	7 5.7	2 1.6	0 0.0	7 5.7	9 7.4
男性	121 100.0	45 37.2	18 14.9	11 9.1	4 3.3	18 14.9	2 1.7	1 0.8	0 0.0	5 4.1	17 14.0

### 全体グラフ



全体では「職場にそのような制度がないから」(27.2%)、「生活が成り立たなくなるから」(25.6%)などの回答が多くみられる。

女性の第1位は「職場にそのような制度がないから」で、おもにパートの人が多数この選択肢を選んだことがうかがえる。(本書「付属資料」参照)

男性では第1位は「生活が成り立たなくなるから」で、4割弱の人がこの選択肢を選んでおり、また「職場に休める雰囲気がないから」と「自分の仕事は代わりの人がいないから」が同数2位となっている。

### 【前回調査との比較】

職場に利用し難い雰囲気があるから	48.9%
その他	25.0%
自分の仕事が忙しくなるから	12.5%
無回答	6.8%
勤務評価に影響するから	5.7%
妻または夫の理解が得られないから	1.1%

前回調査では「職場に利用し難い雰囲気があるから」が最も多く半数近くを占めていたが、今回の調査は選択肢の設定がかなり変わっており、単純に比較することは困難である。

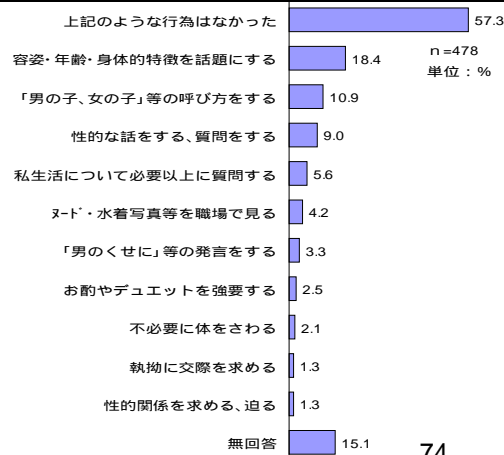
## 職場でのセクシュアル・ハラスメントの有無（問 18）

問 18 性的な言動により相手を不快にさせたり、相手の意に反して性的な行為を強要したりすることは、「セクシュアル・ハラスメント」といわれています。あなたの職場では下に掲げるような行為が、過去 1 年以内にありましたか。該当するものを **すべて** 選び、数字を        で囲んでください。

- 1 性的な話をする、質問をする
- 2 容姿や年齢、身体的特徴について話題にする
- 3 結婚、子どもの有無など私生活に関わることについて必要以上に質問する、話題にする
- 4 「男のくせに」「女には仕事を任せられない」などと発言する
- 5 「男の子、女の子」「おじさん、おばさん」といった呼び方をする
- 6 ヌード写真・雑誌等を職場で見る、パソコンの壁紙（画面）が水着写真等になっている
- 7 不必要に身体をさわる
- 8 酒席等でお酌やデュエットを強要する、席を指定する
- 9 執拗に交際を求める
- 10 性的関係を求める、迫る
- 11 上記のような行為はなかった

問18 職場でのセクハラ行為(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	性的な話をする、質問をする	43	9.0
2	容姿・年齢・身体的特徴を話題にする	88	18.4
3	私生活について必要以上に質問する	27	5.6
4	「男のくせに」等の発言をする	16	3.3
5	「男の子、女の子」等の呼び方をする	52	10.9
6	ヌード・水着写真等を職場で見る	20	4.2
7	不必要に体をさわる	10	2.1
8	お酌やデュエットを強要する	12	2.5
9	執拗に交際を求める	6	1.3
10	性的関係を求める、迫る	6	1.3
11	上記のような行為はなかった	274	57.3
	無回答	72	15.1
	非該当	295	
	全体	478	100.0



過去 1 年以内に職場でセクシュアル・ハラスメントは「なかった」とする回答が最も多く 6 割近くを占める一方で、「容姿や年齢等について話題にする」(18.4%) 等の回答もみられる。

## 【男女別】

	全体	性的な話を する、質問をす る	容姿・年 齢等につ いて話題 にする	私生活に ついて必 要以上に 質問する	「男のく せに」等 の発言を する	「男の子、 女の子」 等の呼び 方をする	スト・水 着写真等 を職場で 見る	不必要に 体をさわ る	お酌や デュエツ トを強要 する	執拗に交 際を求め る	性的関係 を求め る、迫る	上記のよ うな行為 はなかつ た	無回答
合計	478 100.0	43 9.0	88 18.4	27 5.6	16 3.3	52 10.9	20 4.2	10 2.1	12 2.5	6 1.3	6 1.3	274 57.3	72 15.1
女性	239 100.0	20 8.4	41 17.2	12 5.0	8 3.3	30 12.6	11 4.6	7 2.9	8 3.3	5 2.1	5 2.1	143 59.8	32 13.4
男性	233 100.0	23 9.9	46 19.7	15 6.4	8 3.4	22 9.4	9 3.9	3 1.3	4 1.7	1 0.4	1 0.4	128 54.9	38 16.3

性別による大きな違いはみられないが、女性では、男性に比べ「『男の子、女の子』『おじさん、おばさん』といった呼び方をする」のポイントがやや高くなっている。

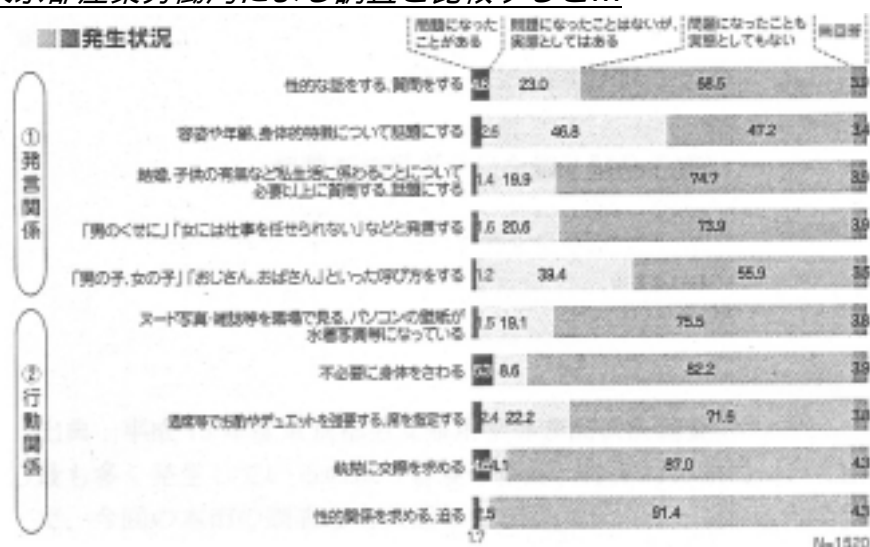
セクシュアル・ハラスメントは「なかった」とする回答は、女性で 59.8%、男性で 54.9%で、女性のポイントの方が高くなっている。

## 【前回調査との比較】

前回調査においては、職場の状況をたずねた質問の中で、女性の 9.8%、男性の 4.3%が「セクシャル・ハラスメントがある」と回答している（本書 71 ページ参照）が、直接の比較は困難である。

## 【都の調査との比較】

\* 東京都産業労働局による調査と比較すると...



出典：平成 13 年度東京都男女雇用平等参画状況調査

最も多く発生しているのは「容姿や年齢、身体的特徴について話題にする」で、今回の本市の調査とも共通している。

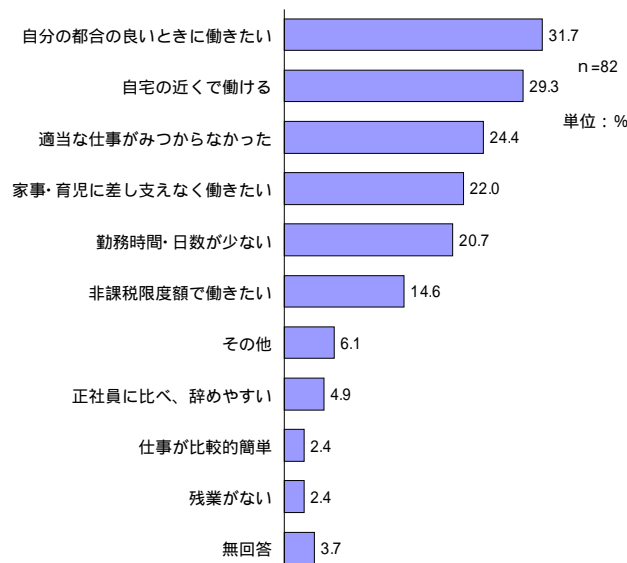
## パートタイムで働いている理由（問 19）

問 19 （現在パート・アルバイトで働いている方に対する質問です。該当しない方は、**問 20** へお進みください。）あなたがパートタイムという働き方を選んだのは、どのような理由からでしょうか。下の 1～10 の中から **2つ以内** で選び、数字を **で囲んで** ください。

- 1 自分の都合の良い日や時間に働きたいから
- 2 自宅の近くで働けるから
- 3 勤務時間が短い・勤務日数が少ないから
- 4 仕事が比較的簡単だから
- 5 非課税限度額（年間 103 万円以下）で働きたかったから
- 6 家事・育児などに差し支えない範囲で働きたかったから
- 7 正社員に比べ、辞めたい時に辞めやすいから
- 8 残業がないから
- 9 正社員としては適当な仕事が見つからなかったから
- 10 その他 具体的に（ ）

問19 パート・アルバイトである理由(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	自分の都合の良いときに働きたい	26	31.7
2	自宅の近くで働ける	24	29.3
3	勤務時間・日数が少ない	17	20.7
4	仕事が比較的簡単	2	2.4
5	非課税限度額で働きたい	12	14.6
6	家事・育児に差し支えなく働きたい	18	22.0
7	正社員に比べ、辞めやすい	4	4.9
8	残業がない	2	2.4
9	適当な仕事が見つからなかった	20	24.4
10	その他	5	6.1
	無回答	3	3.7
	非該当	691	
	全体	82	100.0



回答のうち最も割合が大きいのは「自分の都合の良い日や時間に働きたいから」で、次いで「自宅の近くで働けるから」、「正社員としては適当な仕事が見つからなかったから」などが多くなっている。

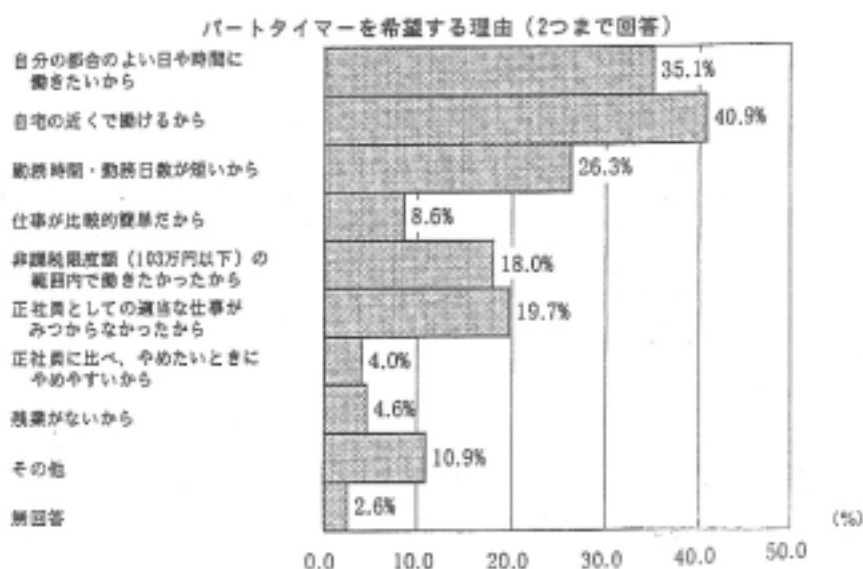
### 【男女別】

	全体	自分の都合の良いときに働きたい	自宅の近くで働ける	勤務時間・勤務日数が少ない	仕事と比較的簡単	非課税限度額で働きたい	家事・育児に差し支えなく働きたい	正社員に比べ、辞めやすい	残業がない	適当な仕事が見つからなかった	その他	無回答
合計	82 100.0	26 31.7	24 29.3	17 20.7	2 2.4	12 14.6	18 22.0	4 4.9	2 2.4	20 24.4	5 6.1	3 3.7
女性	70 100.0	20 28.6	20 28.6	17 24.3	2 2.9	10 14.3	18 25.7	3 4.3	2 2.9	17 24.3	5 7.1	2 2.9
男性	11 100.0	6 54.5	3 27.3	0 0.0	0 0.0	1 9.1	0 0.0	1 9.1	0 0.0	3 27.3	0 0.0	1 9.1

「都合の良い日や時間に働きたいから」、「自宅の近くで働けるから」のほか、女性では「家事・育児などに差し支えない範囲で働きたかったから」などが、男性では「正社員としては適当な仕事が見つからなかったから」が多くなっている。

### 【都の調査との比較】

\* 東京都産業労働局による調査と比較すると...



出典：パートタイマーに関する実態調査（平成14年3月）

1、2番目に多い回答の順位が入れ替わるなど細かい違いはあるが、おおむね今回の本市の調査と似通った傾向を示している。

## 子どものしつけや教育についての考え（問20）

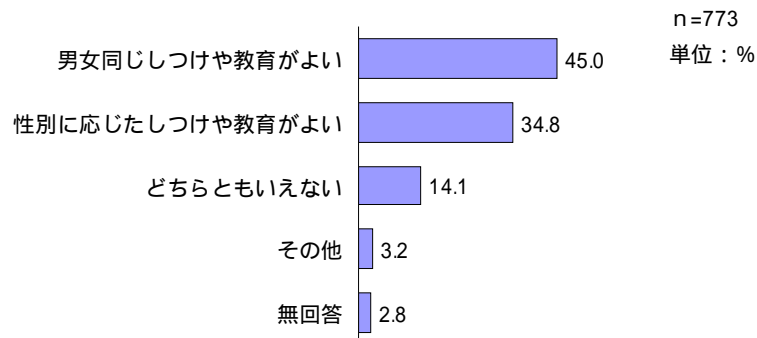
問20 あなたは、子どものしつけや教育についてどう思いますか。下の1～4の中から

**1つだけ**選び、数字を で囲んでください。

- |   |  |
|---|--|
| 1 | 女の子も男の子も性別による区別はせずに、同じようにしつけや教育をするのがよい |
| 2 | 女の子と男の子で、それぞれの性別に応じたしつけや教育をするのがよい      |
| 3 | どちらともいえない                              |
| 4 | その他 具体的に（ ）                            |

### 問20 子どものしつけや教育(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	男女同じしつけや教育がよい	348	45.0
2	性別に応じたしつけや教育がよい	269	34.8
3	どちらともいえない	109	14.1
4	その他	25	3.2
	無回答	22	2.8
	全体	773	100.0



全体では「女の子も男の子も性別による区別はせずに、同じようにしつけや教育をするのがよい」という回答が45%を占め、最も多い。一方、「女の子と男の子で、それぞれの性別に応じたしつけや教育をするのがよい」と回答した人は34.8%いた。

「どちらともいえない」は14.1%。

### 【男女別】

	全体	男女同じしつけや教育がよい	性別に応じたしつけや教育がよい	どちらともいえない	その他	無回答
合計	773 100.0	348 45.0	269 34.8	109 14.1	25 3.2	22 2.8
女性	445 100.0	211 47.4	132 29.7	74 16.6	16 3.6	12 2.7
男性	312 100.0	129 41.3	132 42.3	34 10.9	9 2.9	8 2.6

女性では「男女同じしつけや教育がよい」と考えている人が「性別に応じたしつけや教育がよい」という人を 17.7%上回り第1位となっているが、男性ではそれらの順位が逆転して「性別に応じたしつけや教育がよい」という人の方が多い（ただしその差は1%と僅差）。性別による考え方の違いがみてとれる。

### 【前回調査との比較】

前回調査の結果は、下の表のとおりであった。（単位：%）

性区別せずに、同じ躰・教育をする	43.7	女性	47.0
		男性	39.4
性区別して、各々の躰・教育をする	30.7	女性	25.7
		男性	38.5
どちらともいえない	18.1	女性	19.2
		男性	16.7
不明	7.5	女性	8.1
		男性	5.4

「女の子も男の子も性別による区別はせずに、同じようにしつけや教育をするのがよい」が「女の子と男の子で、それぞれの性別に応じたしつけや教育をするのがよい」を 10%強上回る傾向は今回の調査結果でも続いており、大きな変化は無いといえる。

また女性では「男女同じしつけや教育がよい」と考えている人が「性別に応じたしつけや教育がよい」という人を上回り、男性では逆の結果になっているところも今回も同じである。

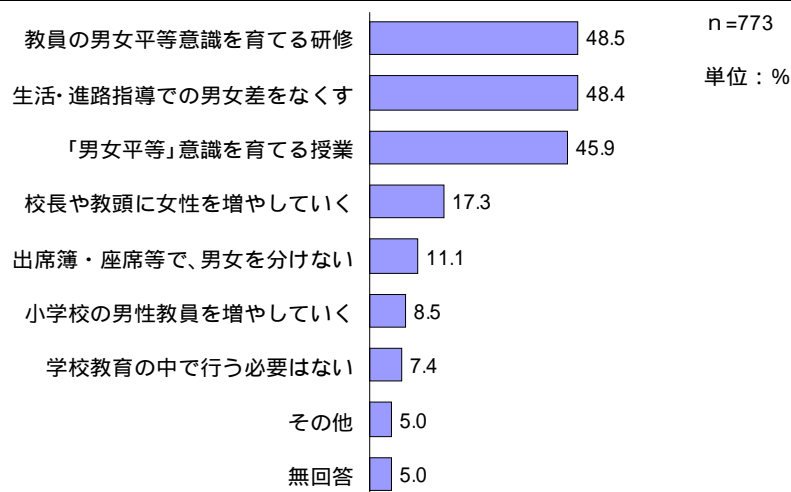
## 学校における男女平等教育への希望（問 21）

問 21 あなたが、学校における「男女平等教育」を推進する上で今後特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。下の 1～8 の中から **3つ以内** で選び、数字を で囲んでください。

- 1 「男女平等」の意識を育てる授業をする
- 2 生活指導や進路指導において男女差をなくす配慮をする
- 3 出席簿・座席・名簿など、男女を分ける習慣をなくす
- 4 教員自身の男女平等意識を育てる研修を行う
- 5 校長や教頭に女性を増やしていく
- 6 小学校に男性教員を増やしていく
- 7 その他 具体的に（ ）
- 8 学校教育の中で行う必要はないと思う

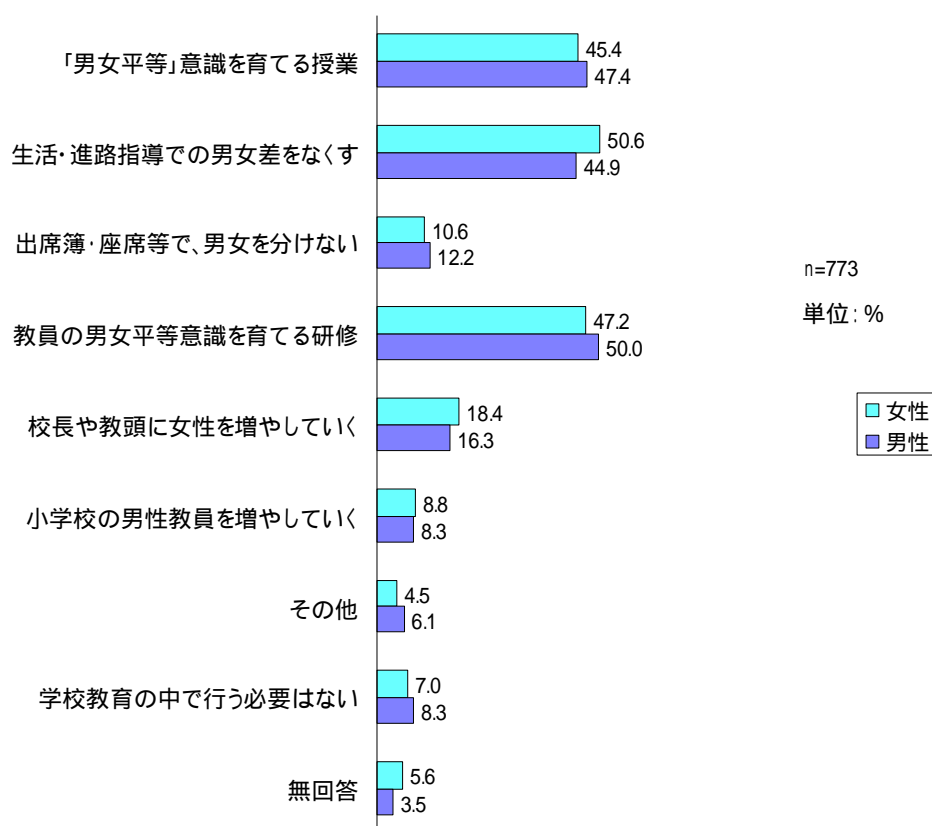
問21 男女平等教育について(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	「男女平等」意識を育てる授業	355	45.9
2	生活・進路指導での男女差をなくす	374	48.4
3	出席簿・座席等で、男女を分けない	86	11.1
4	教員の男女平等意識を育てる研修	375	48.5
5	校長や教頭に女性を増やしていく	134	17.3
6	小学校の男性教員を増やしていく	66	8.5
7	その他	39	5.0
8	学校教育の中で行う必要はない	57	7.4
	無回答	39	5.0
	全体	773	100.0



「教員自身の男女平等意識を育てる研修を行う」(48.5%)、「生活指導や進路指導において男女差をなくす配慮をする」(48.4%)、「『男女平等』の意識を育てる授業をする」(45.9%) ことに力を入れてほしいという回答が多くみられる。

## 【男女別】



女性ではいちばん多いのは「生活指導や進路指導において男女差をなくす配慮をする」であるが、男性では全体結果と同じく「教員自身の男女平等意識を育てる研修を行う」がいちばん多く、第2位には「『男女平等』の意識を育てる授業をする」が入っている。

全般的に先生自身の意識改革を望む意見がより多いことが分かる。

また、「学校教育の中で行う必要はないと思う」とした人は女性・男性とも少数で（女性 7.0%、男性 8.3%）、学校における「男女平等教育」への市民の期待の大きさがうかがわれる。

### 【まとめ】

\* 「教員自身の男女平等意識を育てる研修を行う」「生活指導や進路指導において男女差をなくす配慮をする」「『男女平等』の意識を育てる授業をする」が多く選ばれている。

学校における「男女平等教育」に対する市民の期待は大きい。

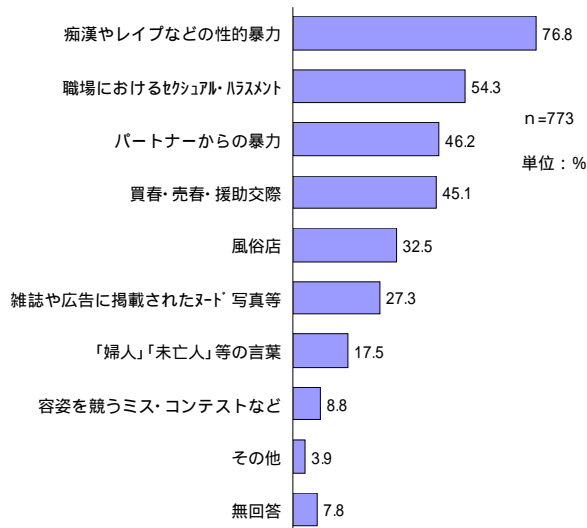
## 女性の人権が侵害されていると感じること（問 22）

問 22 あなたが、「女性の人権が侵害されている」と感じることは何ですか。下の 1～9の中から該当するものを**すべて**選び、数字を  で囲んでください。

- |  |                       |              |
|--|-----------------------|--------------|
| 1 買春・売春・援助交際                           | 2 風俗店                 | 3 パートナーからの暴力 |
| 4 痴漢やレイプなどの性的暴力                        | 5 職場におけるセクシュアル・ハラスメント |              |
| 6 雑誌や広告に掲載されたヌード写真等                    |                       |              |
| 7 容姿を競うミス・コンテストなど                      |                       |              |
| 8 「婦人」「未亡人」などのように女性だけに用いられる言葉          |                       |              |
| 9 その他 具体的に（ <input type="checkbox"/> ） |                       |              |

問22 女性の人権侵害だと感じる事(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	買春・売春・援助交際	349	45.1
2	風俗店	251	32.5
3	パートナーからの暴力	357	46.2
4	痴漢やレイプなどの性的暴力	594	76.8
5	職場におけるセクシュアル・ハラスメント	420	54.3
6	雑誌や広告に掲載されたヌード写真等	211	27.3
7	容姿を競うミス・コンテストなど	68	8.8
8	「婦人」「未亡人」等の言葉	135	17.5
9	その他	30	3.9
	無回答	60	7.8
	全体	773	100.0



「痴漢やレイプなどの性的暴力」とする回答が圧倒的に多く、75%超に達している。第2位は「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」となっており、過半数を占めている。

## 【男女別】

	全体	買春・売春・援助交際	風俗店	パートナーからの暴力	痴漢やレイプなどの性的暴力	職場におけるセクシャル・ハラスメント	雑誌や広告に掲載されたヌード写真等	容姿を競うミス・コンテストなど	「婦人」「未亡人」等の言葉	その他	無回答
合計	773 100.0	349 45.1	251 32.5	357 46.2	594 76.8	420 54.3	211 27.3	68 8.8	135 17.5	30 3.9	60 7.8
女性	445 100.0	213 47.9	156 35.1	201 45.2	353 79.3	238 53.5	148 33.3	44 9.9	85 19.1	15 3.4	34 7.6
男性	312 100.0	128 41.0	89 28.5	147 47.1	228 73.1	173 55.4	61 19.6	22 7.1	48 15.4	14 4.5	24 7.7

第1、2位の回答は女性・男性とも共通しているが、女性では第3位は全体および男性とは異なり「買春・売春・援助交際」が入っている。

また、「雑誌や広告に掲載されたヌード写真等」では13.7ポイント、「風俗店」では6.6ポイント、女性が男性を上回り、性別による特徴がみとれる。

## 【前回調査との比較】

前回調査の結果は、下の表のとおりであった。

売春・買春・援助交際	39.6%	雑誌や広告に掲載されたヌード写真等	23.7%
風俗店	29.9%	容姿を競うミス・コンテスト	9.0%
夫や恋人からの暴力	38.4%	「未亡人」等女性だけに使われる言葉	13.6%
痴漢やレイプ等の性的暴力	65.6%	その他	2.9%
職場におけるセクシャル・ハラスメント	46.6%	無回答	12.4%

前回調査の第1、2位は「痴漢やレイプ等の性的暴力」、「職場におけるセクシャル・ハラスメント」で、今回調査とまったく同じであった。

また全般的に今回の調査結果も前回と非常に似通ったものになっていることが分かる。

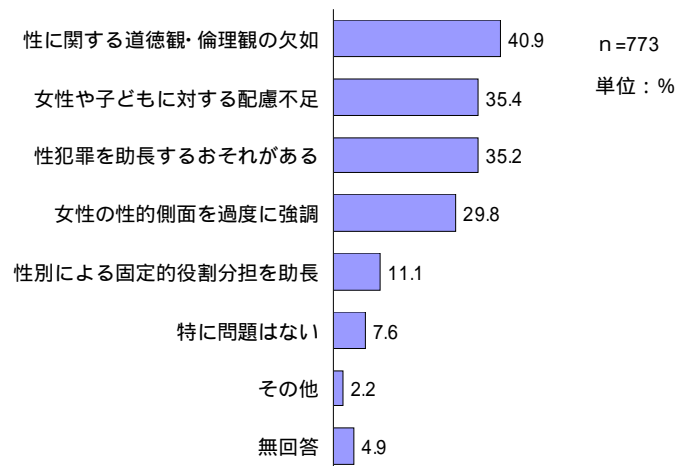
## マスメディアにおける性にまつわる表現についての意識（問23）

問23 テレビ・映画・新聞・雑誌などのマスメディアにおける、性別による固定的な役割分担の表現や、女性に対する暴力、性の表現について、あなたはどのように考えますか。下の1～7の中から**2つ以内**で選び、数字を で囲んでください。

- 1 性別による固定的な役割分担を助長する表現が目立つ
- 2 女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ
- 3 社会全体の性に関する道德観・倫理観が損なわれた表現が目立つ
- 4 性犯罪を助長するおそれがある表現が目立つ
- 5 女性に対する暴力などの表現を望まない人や、子どもに対する配慮が足りない
- 6 特に問題はない
- 7 その他 具体的に（ ）

問23 マスコミによる表現(MA)

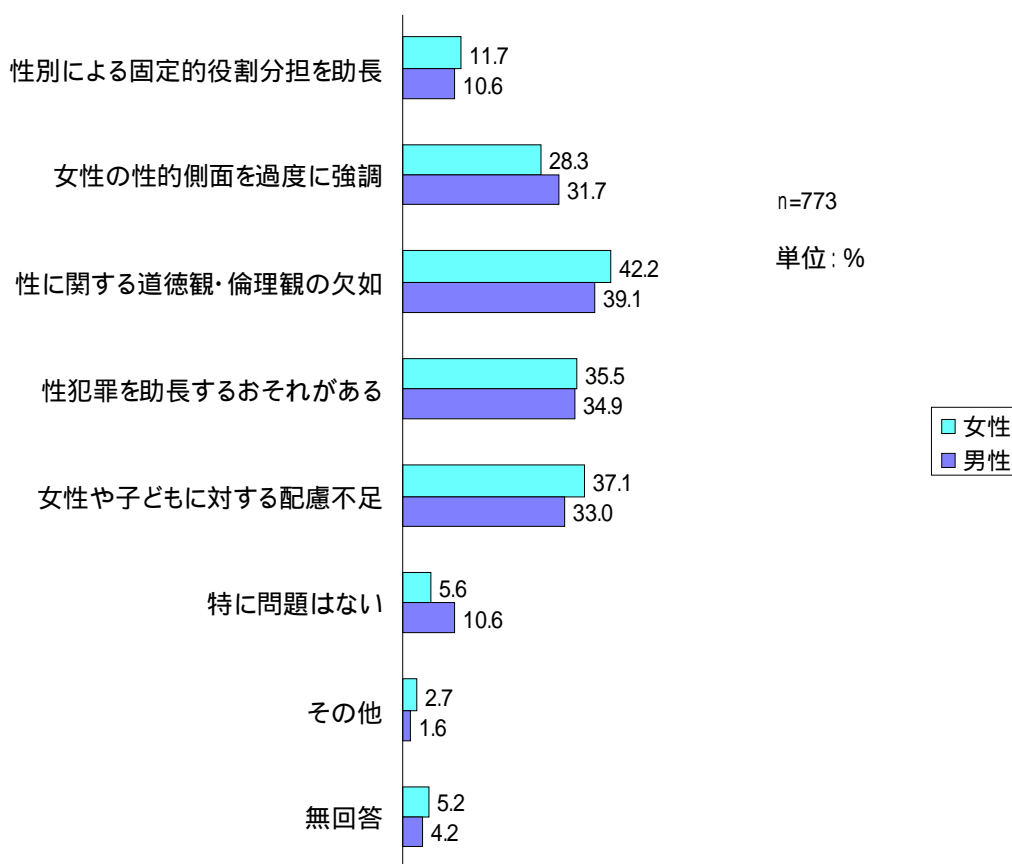
No.	カテゴリー名	n	%
1	性別による固定的役割分担を助長	86	11.1
2	女性の性的側面を過度に強調	230	29.8
3	性に関する道德観・倫理観の欠如	316	40.9
4	性犯罪を助長するおそれがある	272	35.2
5	女性や子どもに対する配慮不足	274	35.4
6	特に問題はない	59	7.6
7	その他	17	2.2
	無回答	38	4.9
	全体	773	100.0



最も多いのが「社会全体の性に関する道德観・倫理観が損なわれた表現が目立つ」(40.9%)という意見で、「女性に対する暴力などの表現を望まない人や、子どもに対する配慮が足りない」(35.4%)、「性犯罪を助長するおそれがある表現が目立つ」(35.2%)などがそれに続いている。

## 【男女別】

	全体	性別による固定的役割分担を助長	女性の性的側面を過度に強調	性に関する道德観・倫理観の欠如	性犯罪を助長するおそれがある	女性や子どもに対する配慮不足	特に問題はない	その他	無回答
合計	773 100.0	86 11.1	230 29.8	316 40.9	272 35.2	274 35.4	59 7.6	17 2.2	38 4.9
女性	445 100.0	52 11.7	126 28.3	188 42.2	158 35.5	165 37.1	25 5.6	12 2.7	23 5.2
男性	312 100.0	33 10.6	99 31.7	122 39.1	109 34.9	103 33.0	33 10.6	5 1.6	13 4.2



女性・男性ともほとんど同じような分布を示しているものの、全体、女性では第1、2位は「社会全体の性に関する道德観・倫理観が損なわれた表現が目立つ」、「女性に対する暴力などの表現を望まない人や、子どもに対する配慮が足りない」であるのに対し男性では第2位は「性犯罪を助長するおそれがある表現が目立つ」になっているなど、細かな違いはみられる。また、男性で「特に問題はない」とする回答が女性より5ポイント高くなっている。

## 第 3 章

結婚や家族、生活  
などのことについて

(問 24 ~ 問 34)

## 性などにまつわる知識の入手先（問 24）

問 24 あなたは、性・結婚・妊娠などについての知識を、おもにどのようにして身につけましたか。下の1～11の中から**2つ以内**で選び、数字を で囲んでください。

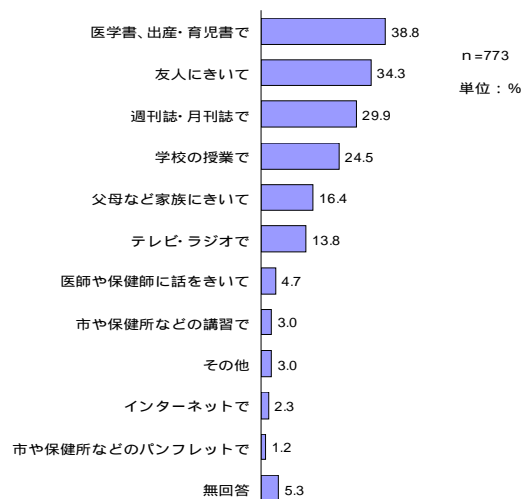
- 1 週刊誌・月刊誌で
- 2 テレビ・ラジオで
- 3 医学書、出産・育児書で
- 4 父母など家族にきいて
- 5 友人にきいて
- 6 学校の授業で
- 7 市や保健所などの講習で
- 8 市や保健所などのパンフレットで
- 9 医師や保健師に話を聴いて
- 10 インターネットで
- 11 その他 具体的に（ ）

問24 性についての知識の入手法(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	週刊誌・月刊誌で	231	29.9
2	テレビ・ラジオで	107	13.8
3	医学書、出産・育児書で	300	38.8
4	父母など家族にきいて	127	16.4
5	友人にきいて	265	34.3
6	学校の授業で	189	24.5
7	市や保健所などの講習で	23	3.0
8	市や保健所などのパンフレットで	9	1.2
9	医師や保健師に話をきいて	36	4.7
10	インターネットで	18	2.3
11	その他	23	3.0
	無回答	41	5.3
	全体	773	100.0

全体としては

「医学書、出産・育児書」  
 （第1位・38.8%）  
 「友人にきいて」  
 （第2位・34.3%）などが  
 多くなっている。



【男女別】

	全体	週刊誌・月刊誌で	テレビ・ラジオで	医学書、出産・育児書で	父母など家族にきいて	友人にきいて	学校の授業で	市や保健所などの講習で	市や保健所などのパンフレットで	医師や保健師に話をきいて	インターネットで
合計	773 100.0	231 29.9	107 13.8	300 38.8	127 16.4	265 34.3	189 24.5	23 3.0	9 1.2	36 4.7	18 2.3
女性	445 100.0	94 21.1	41 9.2	196 44.0	94 21.1	135 30.3	138 31.0	19 4.3	7 1.6	28 6.3	7 1.6
男性	312 100.0	132 42.3	63 20.2	97 31.1	31 9.9	129 41.3	48 15.4	3 1.0	2 0.6	7 2.2	11 3.5
その他	無回答										
	23 3.0	41 5.3									
	12 2.7	21 4.7									
	10 3.2	17 5.4									

女性では「医学書、出産・育児書で」という回答が最も多く（44.0%）、「学校の授業で」（31.0%）、「友人にきいて」（30.3%）が続いているが、男性では最も多いのは「週刊誌・月刊誌で」（42.3%）、僅差の第2位は「友人にきいて」（41.3%）である。

男性の「学校の授業で」の割合は15.4%と、女性の半分以下のポイントとなっている。反対に女性の「週刊誌・月刊誌で」のポイントは、男性のほぼ半分である。

また、女性・男性とも「インターネットで」とした回答はきわめて少なかった。

## 女性の健康を支援するため必要なこと（問25）

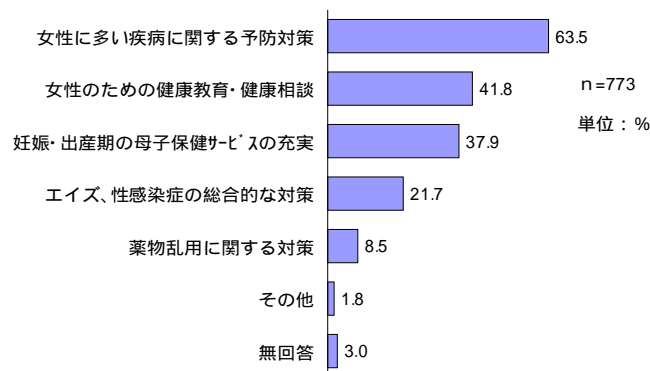
問25 あなたは、女性の健康を支援するために、どのようなことが必要だと思いますか。

下の1～6の中から**2つ以内**を選び、数字を で囲んでください。

- 1 女性のための健康教育・健康相談
- 2 A I D S（エイズ）、性感染症に関する総合的な対策
- 3 健康診断やがん検診等、女性に多い疾病に関する予防対策
- 4 妊娠・出産期における母子保健サービスの充実
- 5 薬物乱用に関する対策
- 6 その他（ ）

### 問25 女性の健康支援に必要なこと(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	女性のための健康教育・健康相談	323	41.8
2	エイズ、性感染症の総合的な対策	168	21.7
3	女性に多い疾病に関する予防対策	491	63.5
4	妊娠・出産期の母子保健サービスの充実	293	37.9
5	薬物乱用に関する対策	66	8.5
6	その他	14	1.8
	無回答	23	3.0
	全体	773	100.0



「健康診断やがん検診等、女性に多い疾病に関する予防対策」という回答が最も多く、6割を超えている。

次いで多いのは、「女性のための健康教育・健康相談」となっている（41.8%）。

## 【男女別】

	全体	女性のための健康教育・健康相談	エイズ、性感染症の総合的な対策	女性に多い疾病に関する予防対策	妊娠出産期の母子保健サービスの充実	薬物乱用に関する対策	その他	無回答
合計	773 100.0	323 41.8	168 21.7	491 63.5	293 37.9	66 8.5	14 1.8	23 3.0
女性	445 100.0	190 42.7	92 20.7	303 68.1	154 34.6	29 6.5	9 2.0	11 2.5
男性	312 100.0	128 41.0	73 23.4	177 56.7	136 43.6	35 11.2	4 1.3	10 3.2

女性・男性とも、最も多い回答は「女性に多い疾病に関する予防対策」で共通しているが、女性のポイントが7割近くであるのに対し、男性では56.7%と、10ポイント以上低くなっている。

また、女性の第2位が「女性のための健康教育・健康相談」であるのに対して、男性では「妊娠・出産期における母子保健サービスの充実」が第2位となっている。

## 【前回調査との比較】

前回調査の結果は、下の表のとおりであった。（無回答：6.7%）

検診等、女性に多い疾病の予防対策	70.1%
女性のための健康教育・健康相談	44.2%
妊娠出産期の母子保健サービスの充実	40.5%
HIV/エイズ/性感染症に関する対策	5.5%
薬物乱用に関する対策	5.0%
その他	1.8%

前回調査結果における第1～第3位の回答はそれぞれ「検診等、女性に多い疾病の予防対策」、「女性のための健康教育・健康相談」、「妊娠出産期の母子保健サービスの充実」であったが、この順位は今回の調査においてもまったく同じで、基本的な傾向は変化していないことが分かる。

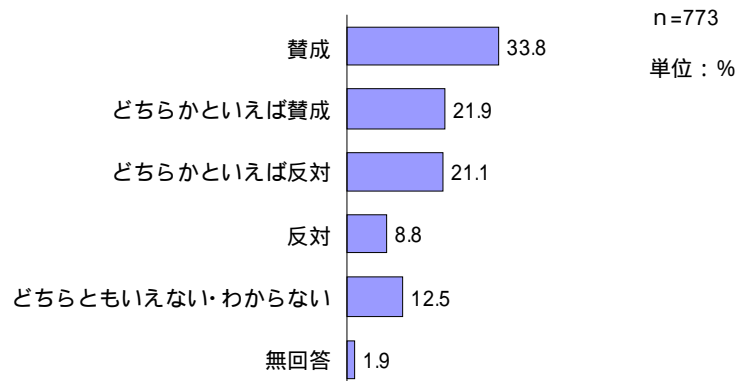
## 結婚観（問 26）

問 26 「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考え方について、あなたのご意見をうかがいます。下の 1～5 の中から **1つだけ** 選び、数字を で囲んでください。

- |      |                   |              |
|------|-------------------|--------------|
| 1 賛成 | 2 どちらかといえば賛成      | 3 どちらかといえば反対 |
| 4 反対 | 5 どちらともいえない・わからない |              |

問26 結婚観(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	賛成	261	33.8
2	どちらかといえば賛成	169	21.9
3	どちらかといえば反対	163	21.1
4	反対	68	8.8
5	どちらともいえない・わからない	97	12.5
	無回答	15	1.9
	全体	773	100.0



「賛成」(33.8%) という回答がいちばん多く、「どちらかといえば」という人も合わせた“肯定派”が過半数にのぼっている。一方、「反対」とする“否定派”は、「どちらかといえば」も合わせて約3割である。

## 【男女別】

問26 結婚観							
	全体	賛成	どちらか といえば 賛成	どちらか といえば 反対	反対	どちらと もいえな い・わか らない	無回答
合計	773 100.0	261 33.8	169 21.9	163 21.1	68 8.8	97 12.5	15 1.9
女性	445 100.0	165 37.1	103 23.1	83 18.7	25 5.6	62 13.9	7 1.6
男性	312 100.0	92 29.5	63 20.2	76 24.4	42 13.5	32 10.3	7 2.2

「賛成」・「どちらかといえば賛成」の肯定的選択肢では女性のポイントの方が男性のポイントを上回っており、「反対」・「どちらかといえば反対」の否定的選択肢では男性の方が女性よりもポイントが高い。女性の方が男性に比べて、結婚するかしないかをより柔軟に考えている傾向がうかがえる。

## 【前回調査との比較】

前回調査においては、「結婚することは、人間として当然のことである、と思うか」という質問に対して、下の表のとおり結果が出ている。

そう思う	24.7%
そう思わない	59.9%
わからない	9.0%
無回答	6.5%

質問の設計が異なるので留意が必要ではあるが、前回調査の「そう思わない」の選択肢を、今回の調査の選択肢でほぼ同趣旨の「賛成」プラス「どちらかといえば賛成」と同じ内容であると考えれば、「結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考え方の人の割合は前回調査時とあまり変わっていないことになる。

## 【国の調査との比較】

\* 内閣府による調査と比較すると...

単位：％（N = 3,561）

賛成	どちらかといえ ば賛成	どちらかといえ ば反対	反対	わからない
51.1	21.1	13.5	10.8	3.4

出典：男女共同参画社会に関する世論調査（平成14年7月）

本市の今回の調査（再掲）

単位：％（N = 773）

賛成	どちらかといえ ば賛成	どちらかといえ ば反対	反対	どちらとも いえない・ わからない
33.8	21.9	21.1	8.8	12.5

本市の調査では、国の調査に比べ、「賛成」と「反対」の割合が小さく、「どちらともいえない・わからない」や「どちらかといえば反対」などの割合が大きい。

「賛成」、「どちらかといえば賛成」の合計は、国の調査では70%を超えているが、本市では過半数（55.7%）にとどまっている。

## 結婚や恋愛に関する考え方（問27）

問27 あなたは、次の3つの考え方について、どのように思いますか。ア)～ウ)のそれぞれについて、1～3の中から**1つだけ**選び、表の該当欄の数字を で囲んでください。

	そう思う	そう思わない	判断できない・わからない
ア) 結婚と恋愛は切り離して考えてよい (結婚していてもそれとは別に恋愛をしてもよい)	1	2	3
イ) 「子どもは欲しいが結婚はしたくない」というのも1つの考え方だ	1	2	3
ウ) いろいろ考えると結婚するメリットは少ない	1	2	3

	全体	そう思う	そう思わない	わからない・判断できない	無回答
問27 ア) 結婚と恋愛は別である	773	107	529	110	27
	100.0	13.8	68.4	14.2	3.5
イ) 結婚と子どもは別でもよい	773	238	372	122	41
	100.0	30.8	48.1	15.8	5.3
ウ) 結婚するメリットは少ない	773	68	517	149	39
	100.0	8.8	66.9	19.3	5.0

どの質問においても「そう思わない」という答えが最も多い。

### 【男女別】

問27 ア) 結婚と恋愛は別である					
	全体	そう思う	そう思わない	わからない・判断できない	無回答
合計	773	107	529	110	27
	100.0	13.8	68.4	14.2	3.5
女性	445	50	320	61	14
	100.0	11.2	71.9	13.7	3.1
男性	312	56	200	46	10
	100.0	17.9	64.1	14.7	3.2

「ア 結婚と恋愛は切り離して考えてよい」については、「そう思わない」という選択肢では女性のポイントの方が男性よりも高く、「そう思う」では反対に男性のポイントの方が高くなっている。

問27 イ)結婚と子どもは別でもよい					
	全体	そう思う	そう思わない	わからない・判断できない	無回答
合計	773 100.0	238 30.8	372 48.1	122 15.8	41 5.3
女性	445 100.0	152 34.2	197 44.3	75 16.9	21 4.7
男性	312 100.0	83 26.6	169 54.2	43 13.8	17 5.4

「イ 『子どもは欲しいが結婚はしたくない』というのも1つの考え方だ」については、選択肢「そう思う」では女性のポイントの方が男性よりも高く、「そう思わない」では反対に男性のポイントの方が高くなっている。

問27 ウ)結婚するメリットは少ない					
	全体	そう思う	そう思わない	わからない・判断できない	無回答
合計	773 100.0	68 8.8	517 66.9	149 19.3	39 5.0
女性	445 100.0	45 10.1	289 64.9	92 20.7	19 4.3
男性	312 100.0	22 7.1	219 70.2	55 17.6	16 5.1

「ウ いろいろ考えると結婚するメリットは少ない」については、選択肢「そう思う」では女性のポイントの方が男性よりも高く、「そう思わない」では反対に男性のポイントの方が高くなっている。

## 【前回調査との比較】

前回調査の結果は、下の表のとおりであった。（単位：％）

	そう 思う	そう 思わ ない	わ か ら な い	無 回 答
結婚と恋愛は切り離して考えてよい	39.2	43.0	9.8	8.0
「子どもは欲しいが結婚はしたくない」というのも1つの考え方だ	31.5	43.1	16.1	9.2
いろいろ考えると結婚するメリットは少ない	7.7	64.1	19.1	9.1

## 今回の調査結果（再掲）

	全体	そう 思う	そう 思わ ない	わ か ら な い・ 判 断 で き な い	無 回 答
問27 ア) 結婚と恋愛は別である	773	107	529	110	27
	100.0	13.8	68.4	14.2	3.5
イ) 結婚と子どもは別でもよい	773	238	372	122	41
	100.0	30.8	48.1	15.8	5.3
ウ) 結婚するメリットは少ない	773	68	517	149	39
	100.0	8.8	66.9	19.3	5.0

今回の調査では、前回調査と比べ、どの質問においても選択肢「そう思わない」の割合が増加し、「そう思う」の割合は質問「ウ」を除いて減少している。

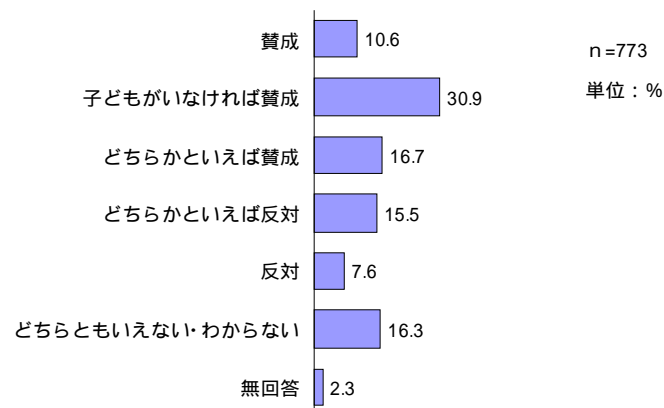
## 離婚観（問28）

問28 「結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよい」という考え方について、あなたのご意見をうかがいます。下の1～6の中から**1つだけ**選び、数字を        で囲んでください。

- |              |                         |
|--------------|-------------------------|
| 1 賛成         | 2 「子どもがいなければ」という条件付きで賛成 |
| 3 どちらかといえば賛成 | 4 どちらかといえば反対            |
| 5 反対         | 6 どちらともいえない・わからない       |

### 問28 離婚観(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	賛成	82	10.6
2	子どもがいなければ賛成	239	30.9
3	どちらかといえば賛成	129	16.7
4	どちらかといえば反対	120	15.5
5	反対	59	7.6
6	どちらともいえない・わからない	126	16.3
	無回答	18	2.3
	全体	773	100.0



全体では「子どもがいなければ」という条件付きで賛成」という意見がいちばん多く（30.9%）、次いで「どちらかといえば賛成」（16.7%）が続いている。それら2つの選択肢と「賛成」を合わせた“肯定派”が58.2%に達し、「反対」・「どちらかといえば反対」を合わせた“否定派”（23.1%）を35ポイント以上上回っている。

## 【男女別】

問28 離婚観	全体	賛成	子どもがいなければ賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	どちらともいえない・わからない	無回答
合計	773 100.0	82 10.6	239 30.9	129 16.7	120 15.5	59 7.6	126 16.3	18 2.3
女性	445 100.0	52 11.7	138 31.0	79 17.8	58 13.0	26 5.8	84 18.9	8 1.8
男性	312 100.0	29 9.3	95 30.4	47 15.1	59 18.9	33 10.6	41 13.1	8 2.6

女性では「どちらかといえば賛成」という意見が2番めに多くなっているが、男性では2番めに多い意見は「どちらかといえば反対」であり、性別による違いがみられる。

また女性では「どちらともいえない・わからない」の割合が男性よりも6ポイント近く高く、判断に迷う人も多いことが分かる。

## 【前回調査との比較】

前回調査の結果は、下の表のとおりであった。

結婚離婚はもっと自由にすべきだ	10.4%
子どもがいるなら離婚はすべきでない	31.8%
事情によっては離婚しても構わない	16.5%
離婚はなるべくしない方がよい	31.8%
無回答	2.5%

質問・選択肢とも設計の趣旨が異なり単純な比較は困難であるが、前回調査の選択肢（上記）の内容が、上の行から順に今回調査の選択肢「1～4」とほぼ同じと考えると、上から3つめまでの選択肢については今回の調査でもその割合にほとんど変化がみられず、基本的な傾向に変化は無いと言える。

## 【国の調査との比較】

\* 内閣府による調査と比較すると...

単位：%（N = 3,561）

賛成	どちらかといえ ば賛成	どちらかといえ ば反対	反対	わからない
26.1	27.0	23.7	14.5	8.7

出典：男女共同参画社会に関する世論調査（平成14年7月）

本市の調査では、国の調査に比べて「賛成」、「反対」の割合がともに少なく、「どちらともいえない・わからない」が多い。  
また、本市、国の調査とも、「どちらかといえば賛成」が「どちらかといえ  
ば反対」を若干上回っている。

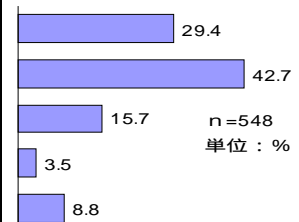
## 夫婦やパートナー間におけるコミュニケーション状況（問 29）

問 29（「現在結婚しているまたはパートナーと暮らしている（事実婚）」方〔問 6 で「1」または「2」と答えた方〕に対する質問です。該当しない方は問 32 へお進みください。）いろいろな問題について、ふだんからパートナー間でよく話し合っていますか。下の 1～4 の中から最も近いものを **1 つだけ** 選び、数字を で囲んでください。

- |             |               |
|-------------|---------------|
| 1 よく話し合う    | 2 まあ話し合う方だと思う |
| 3 あまり話し合わない | 4 ほとんど話し合わない  |

問29 パートナーとの話し合い(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	よく話し合う	161	29.4
2	まあ話し合う方だと思う	234	42.7
3	あまり話し合わない	86	15.7
4	ほとんど話し合わない	19	3.5
	無回答	48	8.8
	非該当	225	
	全体	548	100.0



最も多いのは「まあ話し合う方だと思う」という回答で、4割強を占める。

「よく話し合う」(29.4%)、「あまり話し合わない」(15.7%)がそれに続いている。

### 【男女別】

	全体	よく話し合う	まあ話し合う方だと思う	あまり話し合わない	ほとんど話し合わない	無回答
合計	548 100.0	161 29.4	234 42.7	86 15.7	19 3.5	48 8.8
女性	310 100.0	99 31.9	131 42.3	47 15.2	11 3.5	22 7.1
男性	227 100.0	61 26.9	97 42.7	37 16.3	7 3.1	25 11.0

性別による大きな分布の違いはみられないが、「よく話し合う」とした回答の割合が、女性では31.9%で、男性の26.9%を5ポイント上回っている。

## 家事分担の状況（問 30）

問 30 あなたの家庭では、次のページに掲げる家事を、だれが担当していますか。

ア)～キ)のそれぞれについて、1～8の中から**1つだけ**選び、表の該当欄の数字を で囲んでください。

	1	2	3	4	5	6	7	8
	おもに妻	妻が主で夫が協力	妻と夫が半分ずつ	夫が主で妻が協力	おもに夫	その他の家族	その他	該当者なし
ア) 食事の準備	1	2	3	4	5	6	7	
イ) 食事の後片づけ	1	2	3	4	5	6	7	
ウ) 部屋の掃除	1	2	3	4	5	6	7	
エ) 洗濯	1	2	3	4	5	6	7	
オ) 日常の買い物	1	2	3	4	5	6	7	
カ) 子どもの世話や教育	1	2	3	4	5	6	7	8
キ) 高齢者・病人の介護	1	2	3	4	5	6	7	8

	全体	おもに妻	妻が主で夫が協力	妻と夫が半分ずつ	夫が主で妻が協力	おもに夫	その他の家族	その他	該当者なし	無回答
問30 ア) 食事の準備	548	403	68	22	8	8	6	3		30
	100.0	73.5	12.4	4.0	1.5	1.5	1.1	0.5		5.5
イ) 食事の後片づけ	548	313	115	38	18	19	9	4		32
	100.0	57.1	21.0	6.9	3.3	3.5	1.6	0.7		5.8
ウ) 部屋の掃除	548	309	105	49	26	16	4	5		34
	100.0	56.4	19.2	8.9	4.7	2.9	0.7	0.9		6.2
エ) 洗濯	548	392	64	25	10	12	8	2		35
	100.0	71.5	11.7	4.6	1.8	2.2	1.5	0.4		6.4
オ) 日常の買い物	548	275	160	50	11	12	4	1		35
	100.0	50.2	29.2	9.1	2.0	2.2	0.7	0.2		6.4
カ) 子どもの世話や教育	548	134	143	49	4	0	3	4	138	73
	100.0	24.5	26.1	8.9	0.7	0.0	0.5	0.7	25.2	13.3
キ) 高齢者・病人の介護	548	82	40	22	4	1	1	7	309	82
	100.0	15.0	7.3	4.0	0.7	0.2	0.2	1.3	56.4	15.0

【男女別】

前ページの全体集計表に性別による集計表を加えて示すと、以下のようになる。

問30 ア) 食事の準備									
	全体	おもに妻	妻が主で夫が協力	妻と夫が半分ずつ	夫が主で妻が協力	おもに夫	その他の家族	その他	無回答
合計	548 100.0	403 73.5	68 12.4	22 4.0	8 1.5	8 1.5	6 1.1	3 0.5	30 5.5
女性	310 100.0	236 76.1	34 11.0	14 4.5	3 1.0	3 1.0	4 1.3	2 0.6	14 4.5
男性	227 100.0	161 70.9	33 14.5	7 3.1	5 2.2	5 2.2	2 0.9	1 0.4	13 5.7

問30 イ) 食事の後片づけ									
	全体	おもに妻	妻が主で夫が協力	妻と夫が半分ずつ	夫が主で妻が協力	おもに夫	その他の家族	その他	無回答
合計	548 100.0	313 57.1	115 21.0	38 6.9	18 3.3	19 3.5	9 1.6	4 0.7	32 5.8
女性	310 100.0	202 65.2	52 16.8	15 4.8	10 3.2	8 2.6	6 1.9	2 0.6	15 4.8
男性	227 100.0	107 47.1	63 27.8	21 9.3	8 3.5	11 4.8	2 0.9	1 0.4	14 6.2

問30 ウ) 部屋の掃除									
	全体	おもに妻	妻が主で夫が協力	妻と夫が半分ずつ	夫が主で妻が協力	おもに夫	その他の家族	その他	無回答
合計	548 100.0	309 56.4	105 19.2	49 8.9	26 4.7	16 2.9	4 0.7	5 0.9	34 6.2
女性	310 100.0	194 62.6	50 16.1	23 7.4	11 3.5	8 2.6	3 1.0	5 1.6	16 5.2
男性	227 100.0	110 48.5	53 23.3	25 11.0	15 6.6	8 3.5	1 0.4	0 0.0	15 6.6

問30 エ) 洗濯									
	全体	おもに妻	妻が主で夫が協力	妻と夫が半分ずつ	夫が主で妻が協力	おもに夫	その他の家族	その他	無回答
合計	548 100.0	392 71.5	64 11.7	25 4.6	10 1.8	12 2.2	8 1.5	2 0.4	35 6.4
女性	310 100.0	234 75.5	32 10.3	11 3.5	4 1.3	6 1.9	5 1.6	1 0.3	17 5.5
男性	227 100.0	154 67.8	31 13.7	13 5.7	6 2.6	6 2.6	2 0.9	0 0.0	15 6.6

問30 オ) 日常の買い物									
	全体	おもに妻	妻が主で夫が協力	妻と夫が半分ずつ	夫が主で妻が協力	おもに夫	その他の家族	その他	無回答
合計	548 100.0	275 50.2	160 29.2	50 9.1	11 2.0	12 2.2	4 0.7	1 0.2	35 6.4
女性	310 100.0	177 57.1	78 25.2	26 8.4	3 1.0	6 1.9	2 0.6	1 0.3	17 5.5
男性	227 100.0	93 41.0	81 35.7	22 9.7	8 3.5	6 2.6	2 0.9	0 0.0	15 6.6

問30 カ) 子どもの世話や教育										
	全体	おもに妻	妻が主で夫が協力	妻と夫が半分ずつ	夫が主で妻が協力	おもに夫	その他の家族	その他	該当者なし	無回答
合計	548 100.0	134 24.5	143 26.1	49 8.9	4 0.7	0 0.0	3 0.5	4 0.7	138 25.2	73 13.3
女性	310 100.0	89 28.7	72 23.2	23 7.4	1 0.3	0 0.0	2 0.6	2 0.6	84 27.1	37 11.9
男性	227 100.0	45 19.8	69 30.4	26 11.5	3 1.3	0 0.0	0 0.0	2 0.9	53 23.3	29 12.8

問30 キ) 高齢者・病人の介護										
	全体	おもに妻	妻が主で夫が協力	妻と夫が半分ずつ	夫が主で妻が協力	おもに夫	その他の家族	その他	該当者なし	無回答
合計	548 100.0	82 15.0	40 7.3	22 4.0	4 0.7	1 0.2	1 0.2	7 1.3	309 56.4	82 15.0
女性	310 100.0	55 17.7	24 7.7	8 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 1.6	177 57.1	41 13.2
男性	227 100.0	27 11.9	15 6.6	14 6.2	4 1.8	1 0.4	1 0.4	2 0.9	129 56.8	34 15.0

全般的に見て、「おもに妻」とする回答が最も多い質問がほとんどで、特に食事の準備・後片づけや掃除、洗濯といった家事を主として女性がこなしている実態がみてとれる。

また「子どもの世話や教育」の分野では、男性で「妻が主で夫が協力」という回答が「おもに妻」とする回答を10%以上上回っている。

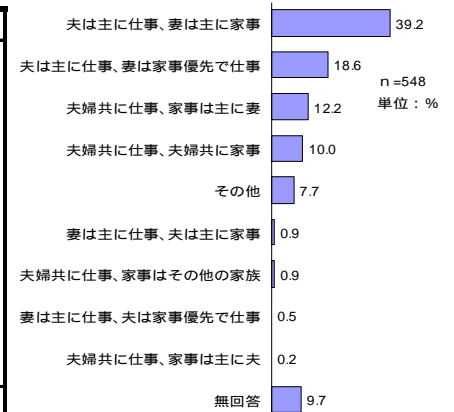
## 家庭における役割分担のイメージ（問 31）

問 31 家庭での実際の役割分担はどうなっていますか。下の 1～9 の中から最も近いものを **1つだけ** 選び、数字を **で囲んで** ください。

- 1 夫（男性）はおもに仕事をし、妻（女性）はおもに家事をしている
- 2 夫（男性）はおもに仕事をし、妻（女性）は家事にさしつかえない範囲で仕事をしている
- 3 妻（女性）はおもに仕事をし、夫（男性）はおもに家事をしている
- 4 妻（女性）はおもに仕事をし、夫（男性）は家事にさしつかえない範囲で仕事をしている
- 5 夫婦（男女）がともに仕事をし、夫婦ともに家事をしている
- 6 夫婦（男女）がともに仕事をし、家事はおもに妻（女性）がしている
- 7 夫婦（男女）がともに仕事をし、家事はおもに夫（男性）がしている
- 8 夫婦（男女）がともに仕事をし、家事は仕事を持たない家族にまかせている
- 9 その他 具体的に（ ）

問31 家庭での実際の役割分担（S A）

No.	カテゴリー名	n	%
1	夫は主に仕事、妻は主に家事	215	39.2
2	夫は主に仕事、妻は家事優先で仕事	102	18.6
3	妻は主に仕事、夫は主に家事	5	0.9
4	妻は主に仕事、夫は家事優先で仕事	3	0.5
5	夫婦共に仕事、夫婦共に家事	55	10.0
6	夫婦共に仕事、家事は主に妻	67	12.2
7	夫婦共に仕事、家事は主に夫	1	0.2
8	夫婦共に仕事、家事はその他の家族	5	0.9
9	その他	42	7.7
	無回答	53	9.7
	非該当	225	
	全体	548	100.0



	全体	夫は主に仕事、妻は主に家事	夫は主に仕事、妻は家事優先で仕事	妻は主に仕事、夫は主に家事	妻は主に仕事、夫は家事優先で仕事	夫婦共に仕事、夫婦共に家事	夫婦共に仕事、家事は主に妻	夫婦共に仕事、家事は主に夫	夫婦共に仕事、家事はその他の家族	その他	無回答
合計	548 100.0	215 39.2	102 18.6	5 0.9	3 0.5	55 10.0	67 12.2	1 0.2	5 0.9	42 7.7	53 9.7
女性	310 100.0	118 38.1	59 19.0	3 1.0	2 0.6	29 9.4	39 12.6	1 0.3	4 1.3	28 9.0	27 8.7
男性	227 100.0	95 41.9	41 18.1	2 0.9	1 0.4	25 11.0	27 11.9	0 0.0	1 0.4	13 5.7	22 9.7

全体では「男性はおもに仕事、女性はおもに家事」(39.2%) という回答が最も多く、以下「男性はおもに仕事、女性家事にさしつかえない範囲で仕事」、「男女がともに仕事をし、家事はおもに女性」が続いている。性別による分布の大きな違いはみられない。

## 男女の役割分担に関する意識（問 32）

問 32 「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方について、あなたのご意見にいちばん近いものを下の 1～5 の中から **1つだけ** 選び、数字を で囲んでください。

- |      |                   |              |
|------|-------------------|--------------|
| 1 賛成 | 2 どちらかといえば賛成      | 3 どちらかといえば反対 |
| 4 反対 | 5 どちらともいえない・わからない |              |

問32 夫は外で働き、妻は家庭を守る（S A）

No.	カテゴリー名	n	%
1	賛成	91	11.8
2	どちらかといえば賛成	247	32.0
3	どちらかといえば反対	121	15.7
4	反対	100	12.9
5	どちらともいえない・わからない	199	25.7
	無回答	15	1.9
	全体	773	100.0

「どちらかといえば賛成」とする回答が最も多く 3 割強を占め、「どちらともいえない・わからない」(25.7%) がそれに続いている。第 3 位は「どちらかといえば反対」。

「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”は 43.8%、「反対」・「どちらかといえば反対」を合わせた“反対”は 28.6%。

### 【男女別】

	全体	賛成	どちらか といえば 賛成	どちらか といえば 反対	反対	どちらと もいえな い・わか らない	無回答
合計	773 100.0	91 11.8	247 32.0	121 15.7	100 12.9	199 25.7	15 1.9
女性	445 100.0	39 8.8	124 27.9	73 16.4	67 15.1	136 30.6	6 1.3
男性	312 100.0	51 16.3	117 37.5	46 14.7	31 9.9	61 19.6	6 1.9

女性では上述の“賛成”が 36.7%、“反対”が 31.5%であるのに対し、男性では“賛成”が 53.8%と過半数を占め、“反対”は 24.6%である。



【男女別】

	全体	仕事が忙しくて疲れている	男性の家事参加を女性が望んでない	勤務時間が長く、あまり家にいない	家事をする手が足りている	家事をするようにしつけられてない	家事は女性の仕事だと考えている	男性が家事をするのは世間体が悪い	家事の仕方がよくわからない
合計	773 100.0	355 45.9	53 6.9	467 60.4	46 6.0	310 40.1	264 34.2	42 5.4	216 27.9
女性	445 100.0	202 45.4	28 6.3	260 58.4	21 4.7	216 48.5	186 41.8	25 5.6	127 28.5
男性	312 100.0	148 47.4	25 8.0	200 64.1	23 7.4	86 27.6	74 23.7	17 5.4	84 26.9
その他									
	わからな い								
	25 3.2	6 0.8							25 3.2
	11 2.5	3 0.7							15 3.4
	14 4.5	3 1.0							6 1.9

女性・男性ともに、最も多い回答は「勤務時間が長く、家にいない」で共通しているが、女性では第2位の回答は全体、男性の「仕事が忙しくて疲れている」とは異なり「子どものときから家事をするようにしつけられていない」となっている。

また、女性では「家事は女性の仕事である、と考えている」という回答の割合も40%を超えている。

男性があまり家事参加しない理由として、女性では男性の生育環境に由来する意識などに大きな原因があると考え、男性自身は仕事等の外的な要因におもな原因があると考えている傾向があることが分かる。

## 夫婦の「姓」に関する意識（夫婦別姓など）（問 34）

問 34 現在、夫婦は同じ名字（姓）を名乗るよう、法律で義務づけられています。あなたは、夫婦の名字についてどのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものを下の 1～4 の中から **1つだけ** 選び、数字を で囲んでください。

- 1 夫婦は同じ名字（姓）を名乗るべきで、法律を改める必要はない
- 2 結婚前の名字（姓）を「通称」として使えるように、法律を改めた方がよい
- 3 結婚前の名字（姓）を名乗れるように法律を改めた方がよい
- 4 その他 具体的に（ ）

### 問34 夫婦別姓等について(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	夫婦は同じ名字を名乗るべき	342	44.2
2	「通称」をできるように法改正すべき	211	27.3
3	別姓を名乗れるように法改正すべき	160	20.7
4	その他	36	4.7
	無回答	24	3.1
	全体	773	100.0

「夫婦は同じ姓を名乗るべき」とする回答が最も多く、45%弱を占めている。

### 【男女別】

	全体	夫婦は同じ名字を名乗るべき	「通称」をできるように法改正すべき	別姓を名乗れるように法改正すべき	その他	無回答
合計	773 100.0	342 44.2	211 27.3	160 20.7	36 4.7	24 3.1
女性	445 100.0	171 38.4	135 30.3	101 22.7	27 6.1	11 2.5
男性	312 100.0	166 53.2	71 22.8	58 18.6	8 2.6	9 2.9

「夫婦は同じ姓を名乗るべき」という回答は女性より男性で割合が大きく、「結婚前の姓を『通称』として使えるように、法律を改めた方がよい」、「婚前の姓を名乗れるように法律を改めた方がよい」という選択肢では逆に女性の割合が男性のそれを上回っている。何らかの形で婚前の姓を使用できるような制度改正を望む女性は、53%と、過半数に達している。

【クロス集計を見てみると】

\* 男女別のほか、<sup>ひょうそく</sup>表側にさらに年齢を加えたクロス集計結果を見てみると...

		全体	夫婦は同じ名字を名乗るべき	「通称」を 使えるよう に法改正 すべき	別姓を名 乗れるよう に法改正 すべき	その他	無回答
合計		773 100.0	342 44.2	211 27.3	160 20.7	36 4.7	24 3.1
性 × 年 齢	女性-20歳未満	7 100.0	3 42.9	1 14.3	2 28.6	1 14.3	0 0.0
	女性-20～24歳	19 100.0	6 31.6	7 36.8	4 21.1	1 5.3	1 5.3
	女性-25～29歳	34 100.0	10 29.4	12 35.3	9 26.5	3 8.8	0 0.0
	女性-30～34歳	44 100.0	10 22.7	21 47.7	10 22.7	3 6.8	0 0.0
	女性-35～39歳	48 100.0	7 14.6	16 33.3	20 41.7	5 10.4	0 0.0
	女性-40～44歳	27 100.0	4 14.8	9 33.3	10 37.0	2 7.4	2 7.4
	女性-45～49歳	28 100.0	3 10.7	12 42.9	10 35.7	3 10.7	0 0.0
	女性-50～54歳	45 100.0	13 28.9	15 33.3	13 28.9	3 6.7	1 2.2
	女性-55～59歳	55 100.0	29 52.7	17 30.9	7 12.7	2 3.6	0 0.0
	女性-60～64歳	54 100.0	34 63.0	10 18.5	7 13.0	1 1.9	2 3.7
	女性-65～69歳	43 100.0	25 58.1	10 23.3	5 11.6	1 2.3	2 4.7
	女性-70歳以上	37 100.0	26 70.3	4 10.8	3 8.1	1 2.7	3 8.1
	男性-20歳未満	3 100.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	男性-20～24歳	12 100.0	6 50.0	0 0.0	6 50.0	0 0.0	0 0.0
	男性-25～29歳	18 100.0	7 38.9	3 16.7	7 38.9	1 5.6	0 0.0
	男性-30～34歳	28 100.0	7 25.0	11 39.3	6 21.4	2 7.1	2 7.1
	男性-35～39歳	22 100.0	10 45.5	8 36.4	4 18.2	0 0.0	0 0.0
	男性-40～44歳	24 100.0	7 29.2	9 37.5	5 20.8	3 12.5	0 0.0
	男性-45～49歳	26 100.0	11 42.3	10 38.5	5 19.2	0 0.0	0 0.0
	男性-50～54歳	22 100.0	9 40.9	6 27.3	7 31.8	0 0.0	0 0.0
	男性-55～59歳	44 100.0	24 54.5	11 25.0	5 11.4	1 2.3	3 6.8
男性-60～64歳	32 100.0	18 56.3	5 15.6	7 21.9	1 3.1	1 3.1	
男性-65～69歳	33 100.0	22 66.7	5 15.2	5 15.2	0 0.0	1 3.0	
男性-70歳以上	48 100.0	43 89.6	2 4.2	1 2.1	0 0.0	2 4.2	

全般的に年齢が高くなるほど「夫婦は同じ姓を名乗るべき」と考える人の割合が上昇している傾向がみてとれる。

男性では年齢による分布のばらつきはさほど大きくはないのに対して、女性ではかなりのばらつきが見られる。30、40歳代の女性では「婚前の姓を通称として使えるよう改正」、「婚前の姓を名乗れるよう法改正」を合わせた割合が7割を超えているのに対し、55歳以上の女性では「夫婦は同じ姓を名乗るべき」と考える人が最も多く、単独で過半数を占めている。

## 第 4 章

老後の生活について  
(問 35 ~ 問 36)

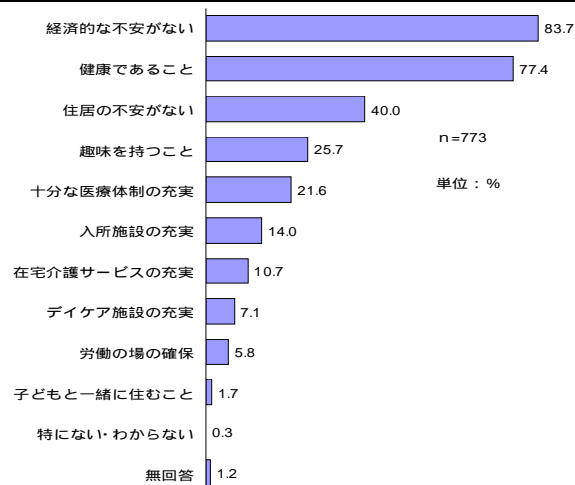
## 老後を安心して迎えるために大切なこと（問 35）

問 35 安心して老後を迎えるためにあなたが特に大切だと思うことは何ですか。下の 1～11 の中から **3つ以内** で選び、数字を        で囲んでください。

- 1 経済的不安がない
- 2 住居の不安がない、安心して住める住宅があること
- 3 健康であること
- 4 労働の場の確保
- 5 趣味を持つこと
- 6 子どもと一緒に住むこと
- 7 十分な医療体制の充実
- 8 特別養護老人ホームなど入所（利用）施設の充実
- 9 老人福祉センターなどデイケア施設の充実
- 10 在宅介護サービスの充実
- 11 特にない・わからない

問35 安心な老後に大切なこと(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	経済的不安がない	647	83.7
2	住居の不安がない	309	40.0
3	健康であること	598	77.4
4	労働の場の確保	45	5.8
5	趣味を持つこと	199	25.7
6	子どもと一緒に住むこと	13	1.7
7	十分な医療体制の充実	167	21.6
8	入所施設の充実	108	14.0
9	デイケア施設の充実	55	7.1
10	在宅介護サービスの充実	83	10.7
11	特にない・わからない	2	0.3
	無回答	9	1.2
	全体	773	100.0



全体では「経済的不安がない」(第1位・83.7%)、「健康であること」(第2位・77.4%)が圧倒的に多い。

## 【男女別】

問35 安心な老後に必要なこと	安心な老後に必要なこと											
	全体	経済的な不安がない	住居の不安がない	健康であること	労働の場の確保	趣味を持つこと	子どもと一緒に住むこと	十分な医療体制の充実	入所施設の充実	デイケア施設の充実	在宅介護サービスの充実	
合計	773 100.0	647 83.7	309 40.0	598 77.4	45 5.8	199 25.7	13 1.7	167 21.6	108 14.0	55 7.1	83 10.7	
女性	445 100.0	384 86.3	177 39.8	344 77.3	22 4.9	95 21.3	4 0.9	107 24.0	69 15.5	37 8.3	53 11.9	
男性	312 100.0	252 80.8	129 41.3	243 77.9	23 7.4	101 32.4	9 2.9	57 18.3	35 11.2	16 5.1	28 9.0	

特にな い・わか らない	無回答
2 0.3	9 1.2
0 0.0	3 0.7
2 0.6	3 1.0

性別による特に大きな差異はみられないが、「十分な医療体制の充実」や入所、デイケア施設および在宅介護サービスの充実の選択肢では女性のポイントが男性をやや上回っており、「趣味を持つこと」および「労働の場の確保」の選択肢では逆に男性の回答率が女性のそれを上回っている。

## 【前回調査との比較】

前回調査において、「自分の老後について、不安に思うことがあるか」という質問をしたところ、下の表のとおりの結果が得られた。

健康を害し自由に動けなくなる	73.9%
生活費	57.8%
働きたい仕事がない	17.8%
身寄りや世話してくれる人がいない	17.3%
安心して住める家がない	10.3%
不安に思うことはない	7.3%
無回答	3.8%
その他	3.7%

質問のたずね方は違うものの、老後の不安として大きなものは、健康上の不安と生活費の不安（＝経済的不安）であることは今回調査の結果でも共通しており、基本的には変わっていないことがうかがえる。

【年齢別】

	全体	経済的な不安がない	住居の不安がない	健康であること	労働場の確保	趣味を持つこと	子どもと一緒に住むこと	十分な医療体制の充実	入所施設の充実	デイケア施設の充実	在宅介護サービスの充実	特になにかわかない	無回答
合計	773 100.0	647 83.7	309 40.0	598 77.4	45 5.8	199 25.7	13 1.7	167 21.6	108 14.0	55 7.1	83 10.7	2 0.3	9 1.2
20歳未満	11 100.0	10 90.9	4 36.4	6 54.5	3 27.3	2 18.2	0 0.0	1 9.1	3 27.3	2 18.2	1 9.1	0 0.0	0 0.0
20～24歳	31 100.0	23 74.2	11 35.5	18 58.1	2 6.5	17 54.8	0 0.0	8 25.8	4 12.9	3 9.7	2 6.5	0 0.0	0 0.0
25～29歳	52 100.0	40 76.9	28 53.8	29 55.8	6 11.5	9 17.3	3 5.8	12 23.1	4 7.7	6 11.5	9 17.3	0 0.0	0 0.0
30～34歳	72 100.0	65 90.3	39 54.2	48 66.7	8 11.1	17 23.6	1 1.4	13 18.1	9 12.5	5 6.9	0 0.0	1 1.4	0 0.0
35～39歳	71 100.0	69 97.2	23 32.4	56 78.9	0 0.0	20 28.2	1 1.4	18 25.4	11 15.5	5 7.0	7 9.9	0 0.0	0 0.0
40～44歳	51 100.0	46 90.2	32 62.7	37 72.5	2 3.9	10 19.6	0 0.0	8 15.7	5 9.8	2 3.9	2 3.9	0 0.0	1 2.0
45～49歳	54 100.0	45 83.3	24 44.4	44 81.5	6 11.1	13 24.1	0 0.0	9 16.7	5 9.3	1 1.9	8 14.8	0 0.0	0 0.0
50～54歳	68 100.0	60 88.2	25 36.8	57 83.8	2 2.9	12 17.6	0 0.0	14 20.6	16 23.5	9 13.2	8 11.8	0 0.0	0 0.0
55～59歳	100 100.0	85 85.0	29 29.0	88 88.0	4 4.0	24 24.0	1 1.0	25 25.0	15 15.0	7 7.0	9 9.0	0 0.0	2 2.0
60～64歳	89 100.0	73 82.0	33 37.1	70 78.7	5 5.6	21 23.6	2 2.2	16 18.0	15 16.9	10 11.2	14 15.7	0 0.0	2 2.2
65～69歳	79 100.0	62 78.5	29 36.7	63 79.7	3 3.8	23 29.1	1 1.3	20 25.3	11 13.9	1 1.3	12 15.2	1 1.3	2 2.5
70歳以上	88 100.0	63 71.6	30 34.1	76 86.4	4 4.5	29 33.0	4 4.5	22 25.0	9 10.2	4 4.5	11 12.5	0 0.0	1 1.1



## 【男女別】

	全体	配偶者の世話になる	娘の世話になる	息子の世話になる	息子の妻/娘の夫の世話になる	知人・友人などの世話になる	民生委員やボランティアを利用する	介護保険制度を利用する	民間の家事代行サービスを利用	特別養護老人ホームなどに入所する	その他
合計	773 100.0	348 45.0	66 8.5	22 2.8	13 1.7	7 0.9	92 11.9	352 45.5	84 10.9	229 29.6	17 2.2
女性	445 100.0	167 37.5	42 9.4	11 2.5	10 2.2	5 1.1	56 12.6	213 47.9	58 13.0	138 31.0	10 2.2
男性	312 100.0	176 56.4	23 7.4	11 3.5	3 1.0	2 0.6	35 11.2	129 41.3	24 7.7	85 27.2	7 2.2

どうしてよいかわからない	無回答
30 3.9	53 6.9
18 4.0	30 6.7
12 3.8	20 6.4

女性で多い回答は、第1、2位がそれぞれ「介護保険制度を利用する」、「配偶者の世話になる」で公的サービス利用の志向が強いのに対し、男性では介護保険制度利用も4割強で2番めに多くなっているものの、第1位は「配偶者の世話になる」で、過半数に達している。「息子の妻」や「知人・友人など」の世話になると答えた人は、女性・男性ともにきわめて少ない。

## 【前回調査との比較】

前回調査の結果は、下の表のとおりであった。

施設のショートステイと自宅の併用で世話	24.7%
わからない	18.7%
介護保険を利用し、自宅で世話	17.9%
ボランティア等を利用し、自宅で世話	13.7%
老人ホームなどの施設に入る	12.3%
家族だけで、自宅で世話	6.2%
無回答	5.0%
その他	1.5%

今回の調査結果では、介護保険制度利用の回答が第1位となり、制度利用の希望が拡大していることがうかがえるが、他方で「施設への入所」の回答も前回調査時の第5位から今回は第3位へと順位を上げている。

## 第 5 章

パートナーからの  
暴力について

(問 37 ~ 問 40)

## パートナー間暴力を受けた経験（問 37）

問 37 あなたは、下の 1～9 に掲げるような行為をパートナーから受けた経験がありますか。今までに受けたことがあるものを**すべて**選び、数字を で囲んでください。経験がないという方は、10 を で囲んでください。

- 1 命の危険を感じるくらいの暴行を受けた
- 2 医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた
- 3 医師の治療は必要でない程度の暴行を受けた
- 4 嫌がっているのに性的な行為を強要された
- 5 見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌などを見せられた
- 6 何を言っても無視され続けた
- 7 交友関係や電話を細かく監視された
- 8 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性（かいしょう）なし」などと言われた
- 9 大声でどなられた
- 10 1～9 のような経験はない

	全体	命の危険を感じるくらいの暴行	医師の治療が必要となる程度の暴行	医師の治療は必要でない程度の暴行	性的行為の強要	ポルノビデオ・雑誌を見せられた	無視	交友関係・電話の細かい監視	「甲斐性なし」などと言われた	大声でどなられた	1～9のよ うな経験 はない	無回答
合計	773 100.0	1 0.1	7 0.9	27 3.5	24 3.1	4 0.5	18 2.3	17 2.2	33 4.3	90 11.6	565 73.1	87 11.3
女性	445 100.0	1 0.2	7 1.6	22 4.9	21 4.7	4 0.9	13 2.9	10 2.2	29 6.5	69 15.5	305 68.5	47 10.6
男性	312 100.0	0 0.0	0 0.0	5 1.6	2 0.6	0 0.0	5 1.6	7 2.2	3 1.0	18 5.8	251 80.4	37 11.9

女性の 3 割強（31.5%）が何らかの形のパートナー間暴力を受けた経験がある、と回答している。

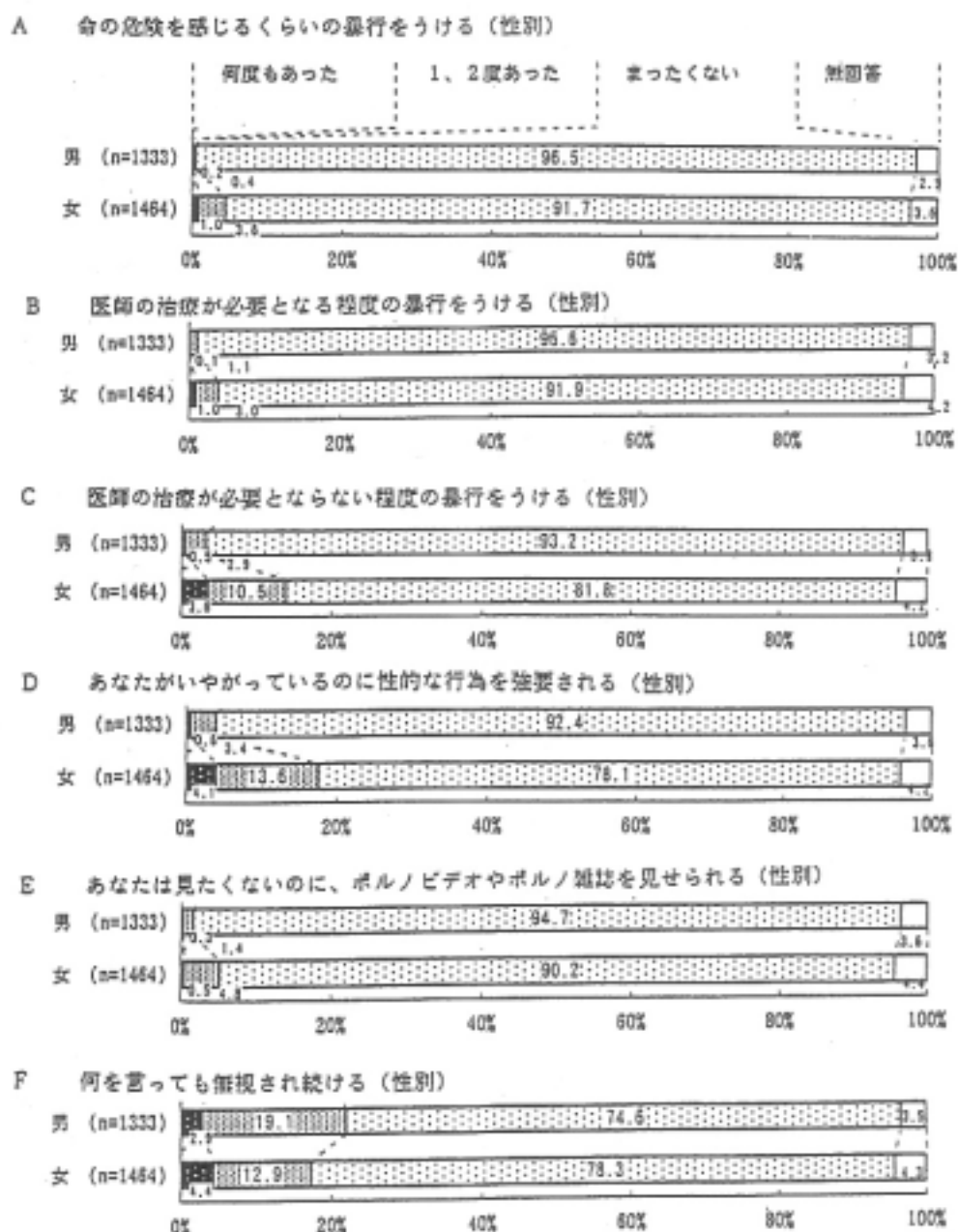
暴力を受けた経験がある人の中では、「大声でどなられた」という回答が女性・男性ともにいちばん多く、女性ではそれに「暴言を浴びせられた」、「医師の治療は必要でない程度の暴行を受けた」、「嫌がっているのに性的な行為を強要された」が続いている。

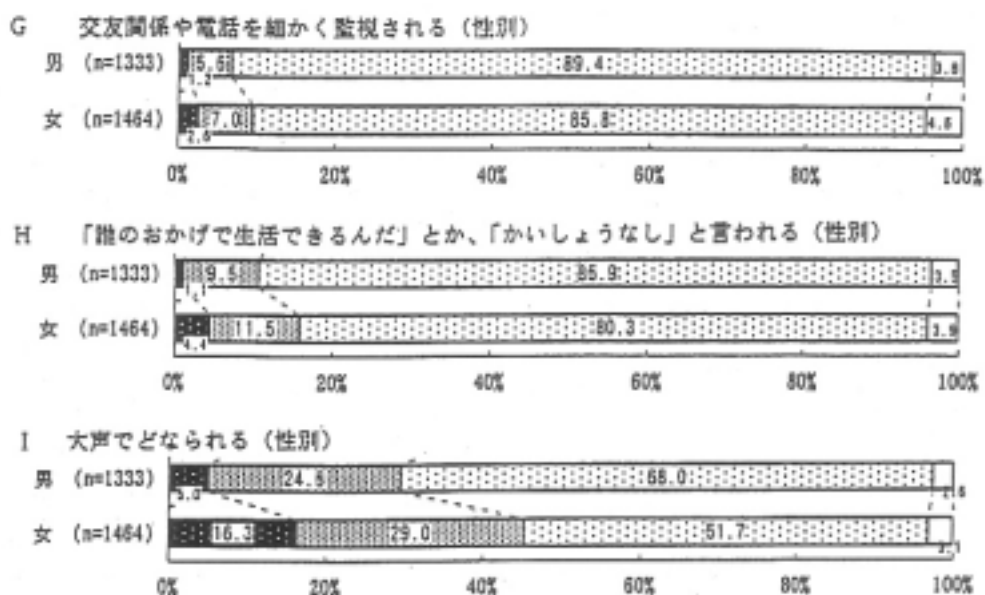
「命の危険を感じるくらいの暴行を受けた」という女性が 1 人、「医師の治療が必要な程度の暴行を受けた」という女性が 7 人、いることが分かる。

【国の調査との比較】

\* (旧) 総理府による調査と比較すると...

暴力等を受けた経験の有無





出典：男女間における暴力に関する調査（平成 11 年 9 ～ 10 月）

質問のたずね方が異なっているので留意が必要だが、女性・男性とも、各選択肢のようなパートナー間暴力を経験している人の割合は、やや下回っているもののほぼ全国平均的な水準であることが推察される。ただし、「大声でどなられる」経験をした人の割合などは総理府の調査よりもかなり少なめであることが推察される。

本市の今回の調査（再掲）

	全体	命の危険を感じるくらいの暴行	医師の治療が必要となる程度の暴行	医師の治療は必要でない程度の暴行	性的行為の強要	ポルノビデオ・雑誌を見せられた	無視	交友関係・電話の細かい監視	「甲斐性なし」などと言われた	大声でどなられた	1～9のよ様な経験はない	無回答
合計	773 100.0	1 0.1	7 0.9	27 3.5	24 3.1	4 0.5	18 2.3	17 2.2	33 4.3	90 11.6	565 73.1	87 11.3
女性	445 100.0	1 0.2	7 1.6	22 4.9	21 4.7	4 0.9	13 2.9	10 2.2	29 6.5	69 15.5	305 68.5	47 10.6
男性	312 100.0	0 0.0	0 0.0	5 1.6	2 0.6	0 0.0	5 1.6	7 2.2	3 1.0	18 5.8	251 80.4	37 11.9

## パートナー間暴力を受けたときの相談先（問 38）

問 38 （問 37 で「**受けた経験がある**」と答えた方「**選択肢 1～9 のどれかに 印をつけた方**」に対する質問です。該当しない方は**問 40** へお進みください。）

問 37 で答えた行為を受けたとき、あなたはどこ（誰）に相談しましたか。下の 1～9 の中から当てはまるものを**すべて**選び、数字を で囲んでください。

「どこ（誰）にも相談しなかった」という方は、10 を で囲んでください。

- 1 家族・親族
- 2 友人・知人
- 3 同じような経験をした人、そうした人のグループ
- 4 家庭裁判所、弁護士
- 5 警察
- 6 役所の相談窓口（「女性悩みごと相談」など）
- 7 配偶者暴力相談支援センター
- 8 医師、カウンセラーなど
- 9 その他 具体的に（ ）
- 10 どこ（誰）にも相談しなかった

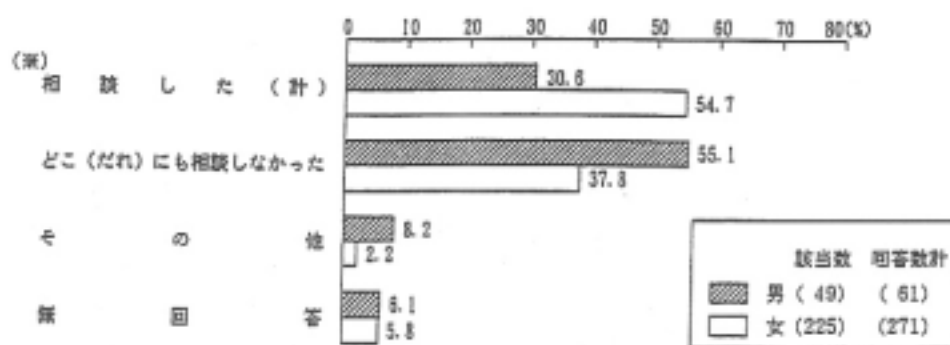
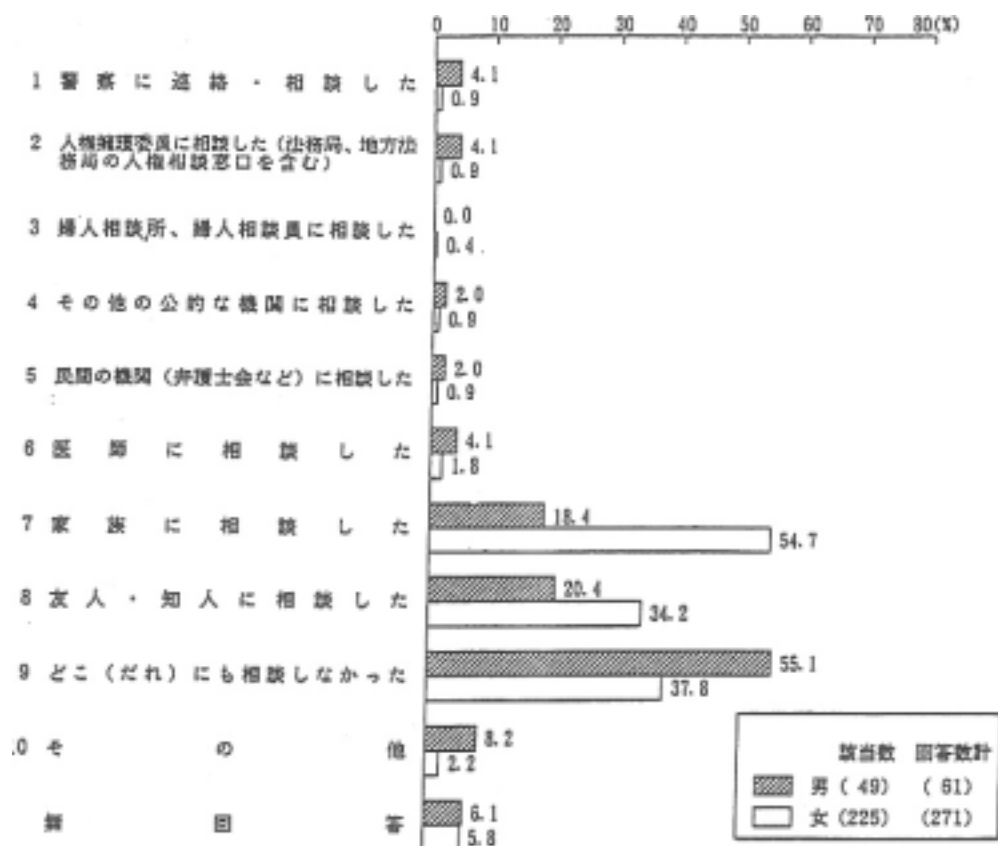
	全体	家族・親族	友人・知人	同じような経験をした人のグループ	家庭裁判所、弁護士	警察	役所の相談窓口	配偶者暴力相談支援センター	医師、カウンセラーなど	その他
合計	121 100.0	26 21.5	28 23.1	1 0.8	1 0.8	1 0.8	4 3.3	0 0.0	2 1.7	4 3.3
女性	93 100.0	23 24.7	23 24.7	0 0.0	1 1.1	1 1.1	3 3.2	0 0.0	1 1.1	3 3.2
男性	24 100.0	3 12.5	5 20.8	1 4.2	0 0.0	0 0.0	1 4.2	0 0.0	1 4.2	1 4.2

どこにも相談しなかった	無回答
72 59.5	2 1.7
53 57.0	1 1.1
16 66.7	0 0.0

この質問に回答した男女 121 人のうち、6 割近くにあたる人が「どこ（誰）にも相談しなかった」と答えており、最も回答の多い選択肢となっている。回答者の 75%以上が女性であるため、回答者全体の各選択肢の割合は女性のそれとほぼ一致しているが、「どこにも相談しなかった」という人の割合は、女性より男性で 10 ポイント近く大きい。相談相手として最も多い回答は「友人・知人」で、次いで多いのは「家族・親族」である。

【国の調査との比較】

\* (旧) 総理府による調査と比較すると...



(注) ◎選択肢のうち1~8までを選んだ人で、かつ10を選んだ人がいるため、合計が100%を超える。  
 ※“相談した”人とは、選択肢のうち、1~8までを選んだ人をさす。

出典：男女間における暴力に関する調査（平成11年9～10月）

実際に相談した相手としては「家族に相談した」、「友人・知人に相談した」と答えた人が多いなど、本市の今回の調査結果と似通った傾向を示している。

( \*ただし、国の調査は「身体的な暴行被害」を対象を限定している。)

しかし、女性・男性とも「どこ(だれ)にも相談しなかった」という人の割合が本市の方が大きくなっており、特に女性では20ポイント近い差がある。

【設問間クロス集計】

\* 問38と、受けた暴力の種類(問37)とのクロス集計結果を見てみると...

	全体	問38 暴力を受けたときの相談先								
		家族・親 族	友人・知 人	同じよう な経験を した人の グループ	家庭裁判 所、弁護 士	警察	役所の相 談窓口	配偶者暴 力相談支 援セン ター	医師、カ ウンセ ラーなど	その他
合計	121 100.0	26 21.5	28 23.1	1 0.8	1 0.8	1 0.8	4 3.3	0 0.0	2 1.7	4 3.3
命の危険を感じる くらいの暴行	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
医師の治療が必要 となる程度の暴行	7 100.0	2 28.6	1 14.3	0 0.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0
医師の治療は必要 でない程度の暴行	27 100.0	6 22.2	8 29.6	0 0.0	0 0.0	1 3.7	2 7.4	0 0.0	0 0.0	1 3.7
性的行為の強要	24 100.0	3 12.5	5 20.8	1 4.2	1 4.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.2	1 4.2
ポルノビデオ・雑 誌を見せられた 無視	4 100.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0
交友関係・電話の 細かい監視	17 100.0	4 23.5	5 29.4	0 0.0	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 11.8	1 5.9
「甲斐性なし」など と言われた	33 100.0	9 27.3	8 24.2	0 0.0	1 3.0	0 0.0	2 6.1	0 0.0	1 3.0	3 9.1
大声でどなられた	90 100.0	21 23.3	21 23.3	1 1.1	0 0.0	1 1.1	3 3.3	0 0.0	1 1.1	4 4.4
1~9のような経験 はない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

	全体	どこにも 相談しな かった	無回答
合計	121 100.0	72 59.5	2 1.7
命の危険を感じる くらいの暴行	1 100.0	0 0.0	0 0.0
医師の治療が必要 となる程度の暴行	7 100.0	4 57.1	0 0.0
医師の治療は必要 でない程度の暴行	27 100.0	15 55.6	0 0.0
性的行為の強要	24 100.0	16 66.7	0 0.0
ポルノビデオ・雑 誌を見せられた 無視	4 100.0	1 25.0	0 0.0
交友関係・電話の 細かい監視	17 100.0	8 47.1	0 0.0
「甲斐性なし」など と言われた	33 100.0	16 48.5	1 3.0
大声でどなられた	90 100.0	52 57.8	2 2.2
1~9のような経験 はない	0 0.0	0 0.0	0 0.0

「命の危険を感じるくらいの暴行」を受けた人は、警察に相談していることが分かる。  
また、「医師の治療が必要となる程度の暴行」を受けたにもかかわらずどこにも相談しなかった、という人が4人もみられる。

## パートナー間暴力についてどこにも相談しなかった理由（問 39）

問 39 （問 38 で「10 どこ（誰）にも相談しなかった」と答えた方に対する質問です。誰かに相談された方は、問 40 へお進みください。）あなたが相談しなかった理由は何ですか。下の 1～12 の中から近いものを **3つ以内** で選び、数字を で囲んでください。

- 1 どこ（誰）に相談してよいかわからなかったから
- 2 相談する人がいなかったから
- 3 はずかしくて誰にも言えなかったから
- 4 被害を受けたことを思い出したくなかったから
- 5 相談しても無駄だと思ったから
- 6 相談したことがわかると、仕返しやもっとひどい暴力を受けると思ったから
- 7 自分さえがまんすればなんとかこのままやっていけると思ったから
- 8 他人を巻き込みたくなかったから
- 9 子どもに危害が及ぶと思ったから
- 10 自分にも悪いところがあると思ったから
- 11 相談するほどのことではないと思ったから
- 12 その他 具体的に（ ）

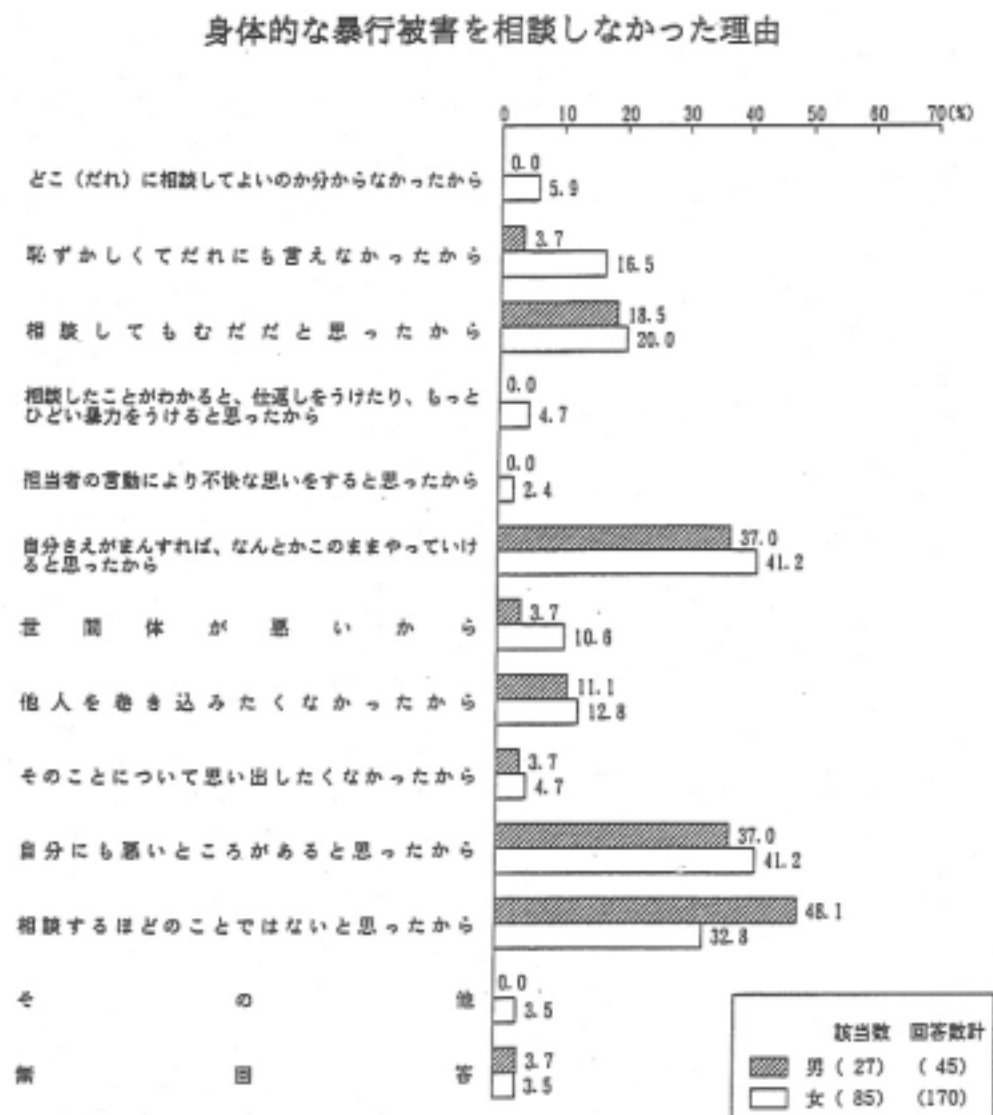
	全体	誰に相談すべきかわからなかった	相談する人がいなかった	はずかしくて言えなかった	されたことを思い出したくなかった	相談しても無駄だと思った	仕返しされると思った	自分さえ我慢すればよいと思った	他人を巻き込みたくなかった	子どもに危害が及ぶと思った
合計	72 100.0	5 6.9	4 5.6	10 13.9	2 2.8	10 13.9	1 1.4	8 11.1	5 6.9	1 1.4
女性	53 100.0	5 9.4	4 7.5	8 15.1	2 3.8	9 17.0	1 1.9	5 9.4	5 9.4	1 1.9
男性	16 100.0	0 0.0	0 0.0	1 6.3	0 0.0	1 6.3	0 0.0	2 12.5	0 0.0	0 0.0

自分にも落ち度があると思った	相談するほどではないと思った	その他	無回答
13 18.1	43 59.7	4 5.6	1 1.4
6 11.3	31 58.5	3 5.7	1 1.9
6 37.5	11 68.8	1 6.3	0 0.0

全体、女性・男性ともで、「相談するほどのことではないと思ったから」との回答が最も多い。次いで多いのは全体、男性では「自分にも悪いところがあると思ったから」、女性では「相談しても無駄だと思ったから」とする回答である。

【国の調査との比較】

\* (旧)総理府による調査と比較すると...



出典：男女間における暴力に関する調査（平成11年9～10月）

国の調査は「身体的な」暴行被害を相談しなかった理由を尋ねているので若干趣旨の異なる点があるが、「相談するほどのことではないと思ったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」との回答が多く挙がるなど、今回の本市の調査と傾向が類似している点もある。国調査ではその他に「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」とした回答も多い。

【設問間クロス集計】

\* 問39と、受けた暴力の種類(問37)とのクロス集計結果を見てみると...

	全体	問39 どこにも相談しなかった理由									
		誰に相談すべきかわからなかった	相談する人がいなかった	はずかしくて言えなかった	されたことを思い出さなかった	相談しても無駄だと思った	仕返しされたいと思った	自分さえ我慢すればよいと思った	他人を巻き込みたくなかった	子どもに危害が及ぶと思った	
合計	72 100.0	5 6.9	4 5.6	10 13.9	2 2.8	10 13.9	1 1.4	8 11.1	5 6.9	1 1.4	
命の危険を感じる くらいの暴行	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
医師の治療が必要 となる程度の暴行	4 100.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	
医師の治療は必要 でない程度の暴行	15 100.0	2 13.3	0 0.0	3 20.0	2 13.3	3 20.0	1 6.7	2 13.3	0 0.0	1 6.7	
性的行為の強要	16 100.0	3 18.8	2 12.5	6 37.5	2 12.5	3 18.8	1 6.3	3 18.8	2 12.5	1 6.3	
ポルノビデオ・雑誌 を見せられた	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
無視	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	3 42.9	1 14.3	0 0.0	0 0.0	1 14.3	
交友関係・電話の 細かい監視	8 100.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	
「甲斐性なし」など と言われた	16 100.0	0 0.0	2 12.5	5 31.3	1 6.3	2 12.5	1 6.3	6 37.5	1 6.3	1 6.3	
大声でどなられた	52 100.0	3 5.8	3 5.8	6 11.5	2 3.8	6 11.5	1 1.9	4 7.7	4 7.7	1 1.9	
1~9のような経験 はない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	

	全体	自分にも 落ち度があると 思った	相談する ほどでは ないと思 った	その他	無回答
合計	72 100.0	13 18.1	43 59.7	4 5.6	1 1.4
命の危険を感じる くらいの暴行	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
医師の治療が必要 となる程度の暴行	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
医師の治療は必要 でない程度の暴行	15 100.0	1 6.7	8 53.3	2 13.3	1 6.7
性的行為の強要	16 100.0	1 6.3	6 37.5	1 6.3	0 0.0
ポルノビデオ・雑誌 を見せられた	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
無視	7 100.0	1 14.3	5 71.4	0 0.0	0 0.0
交友関係・電話の 細かい監視	8 100.0	1 12.5	4 50.0	1 12.5	0 0.0
「甲斐性なし」など と言われた	16 100.0	3 18.8	7 43.8	0 0.0	0 0.0
大声でどなられた	52 100.0	11 21.2	30 57.7	4 7.7	1 1.9
1~9のような経験 はない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

「医師の治療が必要となる程度の暴行」を受けたという人は、「どこに相談してよいかわからなかった」「相談する人がいなかった」「はずかしくて誰にも言えなかった」という理由を答えている。また、性的行為の強要を受けた人やポルノビデオ・雑誌を見せられたという人では、「はずかしくて誰にも言えなかったから」という答えが多い。

## パートナー間暴力に対し有効な援助（問40）

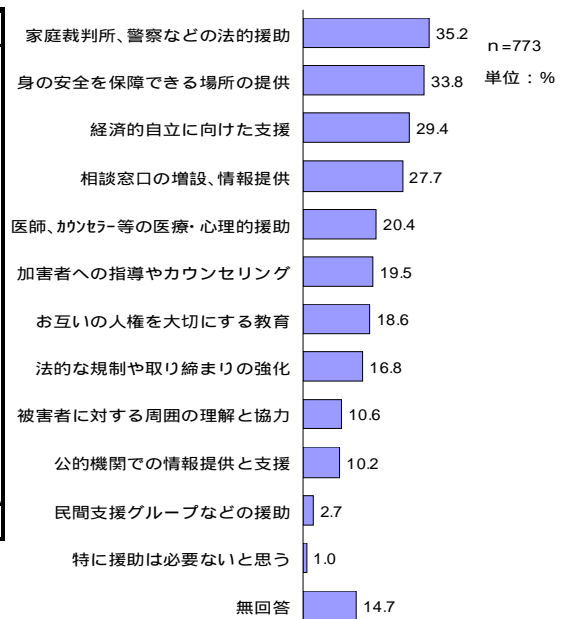
問40 あなたは、パートナーからの暴力に対し、どのような援助が有効だと思いますか。

下の1～12の中から**3つ以内**で選び、数字を        で囲んでください。

- 1 経済的な自立に向けた支援を行うこと
- 2 相談窓口を増やしたり相談窓口の情報を提供すること
- 3 家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助
- 4 医師、カウンセラーなどの医療・心理的援助
- 5 市役所などの公的機関での情報提供と支援
- 6 民間支援グループなどの援助
- 7 身の安全を保障できる場所の提供
- 8 法的な規制や取り締まりを強化すること
- 9 被害者に対する周囲の理解と協力を得やすくすること
- 10 加害者への指導やカウンセリングを行うこと
- 11 お互いの人権を大切にする教育の充実
- 12 特に援助は必要ないと思う

問40 パートナー間暴力に有効な援助(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	経済的自立に向けた支援	227	29.4
2	相談窓口の増設、情報提供	214	27.7
3	家庭裁判所、警察などの法的援助	272	35.2
4	医師、カウンセラー等の医療・心理的援助	158	20.4
5	公的機関での情報提供と支援	79	10.2
6	民間支援グループなどの援助	21	2.7
7	身の安全を保障できる場所の提供	261	33.8
8	法的な規制や取り締まりの強化	130	16.8
9	被害者に対する周囲の理解と協力	82	10.6
10	加害者への指導やカウンセリング	151	19.5
11	お互いの人権を大切にする教育	144	18.6
12	特に援助は必要ないと思う	8	1.0
	無回答	114	14.7
	全体	773	100.0

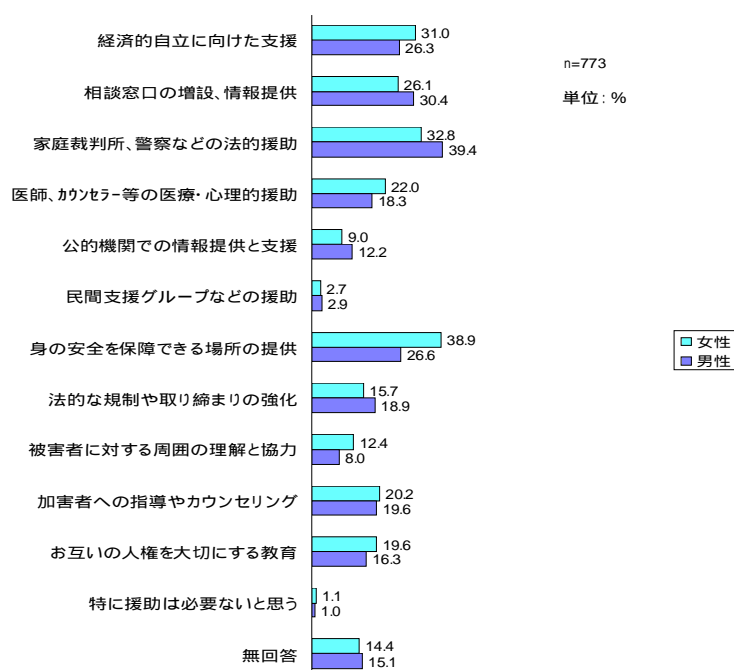


全体では「家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助」が35.2%と最も多く、「身の安全を保障できる場所の提供」(33.8%)、「経済的な自立に向けた支援」(29.4%)、「相談窓口を増やしたり相談窓口の情報を提供すること」(27.7%)などが続いている。

## 【男女別】

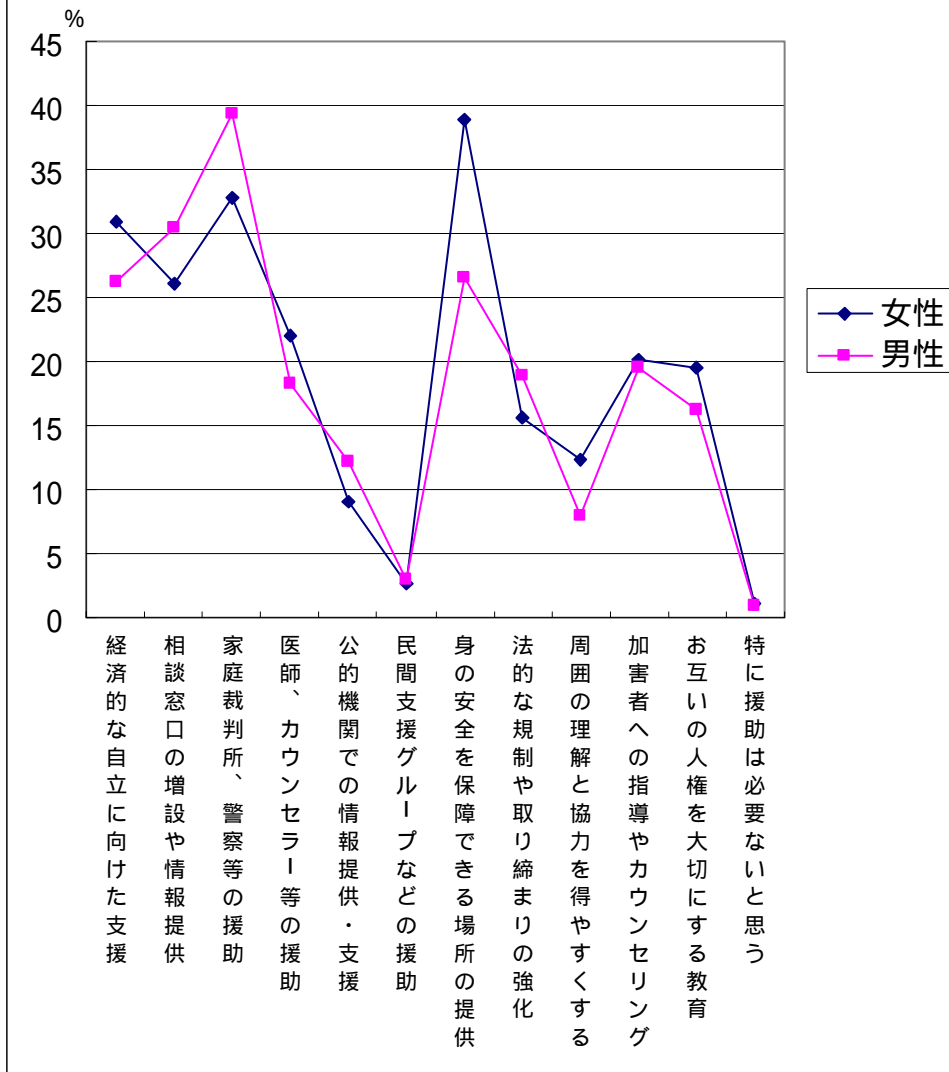
	全体	経済的自立に向けた支援	相談窓口の増設、情報提供	家庭裁判所、警察などの法的援助	医師、カウンセラー等の医療・心理的援助	公的機関での情報提供と支援	民間支援グループなどの援助	身の安全を保障できる場所の提供	法的な規制や取り締まりの強化	被害者に対する周囲の理解と協力
合計	773 100.0	227 29.4	214 27.7	272 35.2	158 20.4	79 10.2	21 2.7	261 33.8	130 16.8	82 10.6
女性	445 100.0	138 31.0	116 26.1	146 32.8	98 22.0	40 9.0	12 2.7	173 38.9	70 15.7	55 12.4
男性	312 100.0	82 26.3	95 30.4	123 39.4	57 18.3	38 12.2	9 2.9	83 26.6	59 18.9	25 8.0

加害者への指導やカウンセリング	お互いの人権を大切にすることの教育	特に援助は必要ないと思う	無回答
151 19.5	144 18.6	8 1.0	114 14.7
90 20.2	87 19.6	5 1.1	64 14.4
61 19.6	51 16.3	3 1.0	47 15.1



1、2番めに多い回答は、女性では「身の安全を保障できる場所の提供」、「家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助」であるのに対し、男性では「家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助」、「相談窓口を増やしたり相談窓口の情報を提供すること」となっている。

男女別グラフ



## 第 6 章

地域活動などに  
ついて  
(問 41 ~ 問 42)

## 最近参加した地域活動（問41）

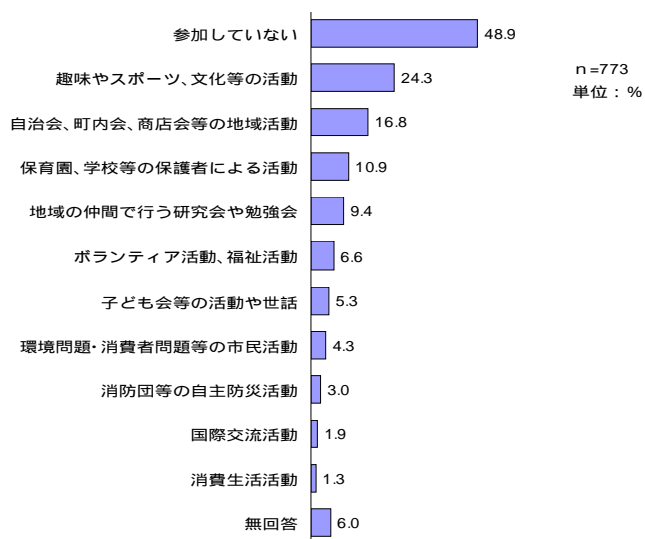
問41 あなたはこの1年間に、次に掲げるような地域活動に参加したことがありますか。

該当するものすべての数字を で囲んでください。

- 1 自治会や町内会、商店会などの地域活動
- 2 保育園・幼稚園の保護者などによる活動、学校のPTA活動
- 3 子ども会や青少年スポーツチームなどの活動や世話
- 4 趣味やスポーツ、文化などの活動
- 5 地域の仲間同士集まって行う研究会や勉強会
- 6 環境問題・消費者問題やリサイクルなどの市民活動
- 7 高齢者や障害者の介護などのボランティア活動、福祉活動
- 8 消防団等の自主防災活動
- 9 国際交流活動
- 10 消費生活活動
- 11 参加していない

### 問41 最近参加した地域活動(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	自治会、町内会、商店会等の地域活動	130	16.8
2	保育園、学校等の保護者による活動	84	10.9
3	子ども会等の活動や世話	41	5.3
4	趣味やスポーツ、文化等の活動	188	24.3
5	地域の仲間で行う研究会や勉強会	73	9.4
6	環境問題・消費者問題等の市民活動	33	4.3
7	ボランティア活動、福祉活動	51	6.6
8	消防団等の自主防災活動	23	3.0
9	国際交流活動	15	1.9
10	消費生活活動	10	1.3
11	参加していない	378	48.9
	無回答	46	6.0
	全体	773	100.0



「参加していない」という回答が最も多く、半分近くを占めている。参加されている活動としては、「趣味やスポーツ、文化等の活動」(24.3%)、「自治会や町内会、商店会などの地域活動」(16.8%)などが多くなっている。

【男女別】

	全体	自治会、町内会、商店会等の地域活動	保育園、学校等の保護者による活動	子ども会等の活動や世話	趣味やスポーツ、文化等の活動	地域の仲間で行う研究会や勉強会	環境問題・消費者問題等の市民活動	ボランティア活動、福祉活動	消防団等の自主防災活動	国際交流活動
合計	773 100.0	130 16.8	84 10.9	41 5.3	188 24.3	73 9.4	33 4.3	51 6.6	23 3.0	15 1.9
女性	445 100.0	73 16.4	68 15.3	25 5.6	116 26.1	48 10.8	24 5.4	33 7.4	13 2.9	9 2.0
男性	312 100.0	52 16.7	15 4.8	15 4.8	68 21.8	23 7.4	9 2.9	17 5.4	10 3.2	6 1.9

消費生活活動	参加していない	無回答
10	378	46
1.3	48.9	6.0
7	197	29
1.6	44.3	6.5
3	177	13
1.0	56.7	4.2

女性・男性ともに「参加していない」という回答が最も多いが、その割合をみると女性では44.3%であるのに対し、男性では56.7%に達しており過半数を占めている。

それ以外で多い回答の上位をみると、第2位、第3位は女性・男性とも「趣味やスポーツ、文化等の活動」、「自治会、町内会、商店会等の地域活動」で共通しているが、第4位は、女性では「保育園・幼稚園の保護者などによる活動、学校のPTA活動」、男性では「地域の仲間同士集まって行う研究会や勉強会」が入っている。

「保育園・幼稚園の保護者などによる活動、学校のPTA活動」は女性に比べ男性のポイントが3分の1以下と参加率がかなり低いが、これは会議や行事といった活動が主として「平日の昼間」に行われるという特性から、家事専業等の女性でなければ参加しにくい、といった状況を反映しているものと推察される。

## 【前回調査との比較】

前回調査の結果は、下の表のとおりであった。

	参加している	参加していない
自治会・町内会等の活動	21.8%	52.0%
P T A・子ども会等の活動	11.9%	65.2%
福祉に関する活動	7.8%	63.6%
自然保護・環境保護の活動	4.5%	65.6%
国際交流活動	2.2%	70.8%
消防団等の自主防災活動	5.3%	67.5%
スポーツ・文化等のグループ活動	20.8%	57.3%
生協などの消費者活動	13.9%	60.0%

「自治会・町内会等の活動」や「スポーツ・文化等のグループ活動」、「P T A・子ども会等の活動」などが多く参加されており、質問のたずね方は異なっているものの、今回の調査結果においてもこの傾向は続いていることが分かる。



と、男性が約7ポイント上回っている。  
他方、「参加したくない」は女性 24.7%、男性 26.6%と、こちらも男性が約2ポイント上回っている。

#### 【前回調査との比較】

前回調査の結果は、下の表のとおりであった。

今すぐにでもやりたい	0.8%
やってみたい気持ちはある	45.1%
やってみたが、今はできない	21.4%
やりたくない	23.4%
無回答	9.4%

前回の結果と比べて、今回の調査においては、「参加してみたい気持ちはある」という人の割合が大幅に増加していることが分かる。

また、「今すぐにでも参加したい」、「参加したくない」という人が、それぞれ微増している。

## 第 7 章

**「男女平等社会の  
実現」をめざしての  
これからの施策に  
ついて  
(問 43 ~ 問 46)**

## 市の事業の認知度（問 43）

問 43 現在、市が行っている下の1～8の事業のうち、あなたが知っているものをすべて選び、数字を で囲んでください。

- 1 『こまえ男女平等推進プラン』
- 2 男女平等推進フォーラム
- 3 女性悩みごと相談
- 4 母子・女性相談
- 5 市の男女平等推進情報紙『こまえーる』
- 6 子ども家庭支援センター
- 7 ファミリーサポートセンター
- 8 女性セミナー・女性問題学習事業（公民館における各種講座・教室など）

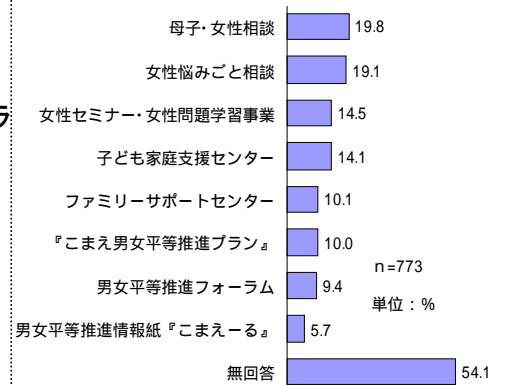
	全体	『こまえ男女平等推進プラン』	男女平等推進フォーラム	女性悩みごと相談	母子・女性相談	男女平等推進情報紙『こまえーる』	子ども家庭支援センター	ファミリーサポートセンター	女性セミナー・女性問題学習事業	無回答
合計	773 100.0	77 10.0	73 9.4	148 19.1	153 19.8	44 5.7	109 14.1	78 10.1	112 14.5	418 54.1
女性	445 100.0	35 7.9	42 9.4	108 24.3	108 24.3	24 5.4	81 18.2	63 14.2	87 19.6	212 47.6
男性	312 100.0	42 13.5	31 9.9	36 11.5	42 13.5	20 6.4	27 8.7	14 4.5	20 6.4	197 63.1

全体、女性・男性ともに無回答が最も多いが、知られている事業のうちで最もよく知られているのは「母子・女性相談」で、特に女性においてはほぼ4分の1の人に認知されている。また「女性悩みごと相談」も女性においては同率2位で、よく知られている。男性の同率2位は「『こまえ男女平等推進プラン』」である。

次いでよく知られているのは、女性では「女性セミナー・女性問題学習事業」（19.6%・第4位）、男性では「女性悩みごと相談」（11.5%・第4位）である。

男性のポイントが女性のそれを上回っている選択肢は無回答および「『こまえ男女平等推進プラン』」、「男女平等推進フォーラム」、「市の男女平等推進情報紙『こまえーる』」の3つで、それ以外の選択肢ではすべて女性のポイントの方が大きくなっている。

全体グラフ



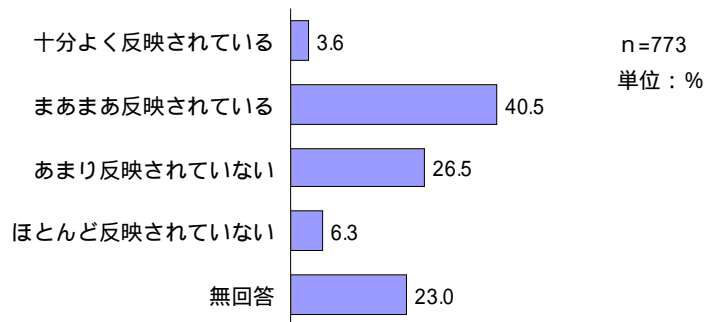
## 市政に女性の意見が反映されているか（問 44）

問 44 あなたは、市の政策・施策に女性の意見が反映されていると思いますか。下の1～4のうち**1つだけ**選び、数字を で囲んでください。

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1 十分よく反映されている | 2 まあまあ反映されている  |
| 3 あまり反映されていない | 4 ほとんど反映されていない |

問44 女性の意見の政策への反映(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	十分よく反映されている	28	3.6
2	まあまあ反映されている	313	40.5
3	あまり反映されていない	205	26.5
4	ほとんど反映されていない	49	6.3
	無回答	178	23.0
	全体	773	100.0



全体では「まあまあ反映されている」という答えがいちばん多く、およそ4割を占めている。

また第2位は「あまり反映されていない」で、26.5%を占める。

「十分よく反映されている」と「まあまあ反映されている」を合計した割合は44.1%、「あまり反映されていない」と「ほとんど反映されていない」の合計の割合は32.8%で、“反映されている”と思っている人の方がやや多いことが分かる。

## 【男女別】

	全体	十分よく 反映され ている	まあまあ 反映され ている	あまり反 映され ていない	ほとんど 反映され ていない	無回答
合計	773 100.0	28 3.6	313 40.5	205 26.5	49 6.3	178 23.0
女性	445 100.0	8 1.8	176 39.6	134 30.1	22 4.9	105 23.6
男性	312 100.0	20 6.4	131 42.0	66 21.2	26 8.3	69 22.1

「十分よく反映されている」で4.6ポイント、「まあまあ反映されている」で2.4ポイント、それぞれ男性のポイントが女性を上回っている。  
「あまり反映されていない」では、反対に女性のポイントが約9ポイント、男性より高くなっている。

## 【前回調査との比較】

前回調査の結果は、下の表のとおりであった。

十分反映されている	2.9%
まあまあ反映されている	34.8%
あまり反映されていない	36.5%
全く反映されていない	2.9%
無回答	22.8%

今回の調査においては、「あまり反映されていない」と思う人の割合が10ポイント減少し、「十分反映されている」、「まあまあ反映されている」と思う人の割合がそれぞれ増加している。

また、前回調査時は“反映されている”と思う2つの選択肢の割合の合計が37.7%、“反映されていない”という2つの選択肢の割合の合計が39.4%で、“反映されていない”と思っている人の方が多かったが、今回の調査結果ではこれらの間に逆転がみられ、“反映されている”と思っている人の方が多くなっている。

市の政策・施策に女性の意見が反映されていると思う人が増加したことが分かる。

## 男女平等推進のため重要と思うこと（問 45）

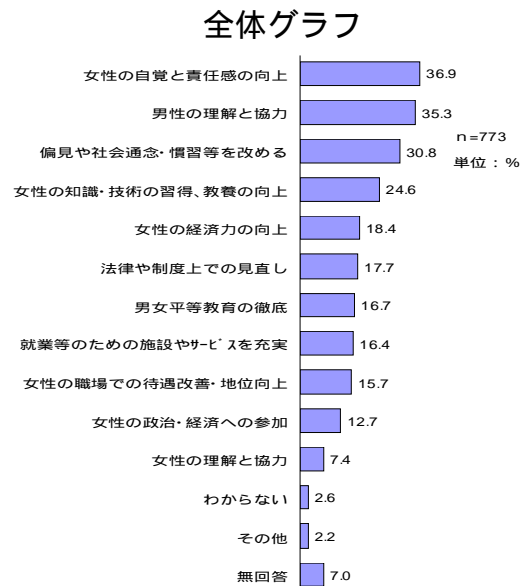
問 45 男女があらゆる分野でもっと平等になるために、重要と思うことは何ですか。

下の 1～13の中から**3つ以内**で選び、数字を で囲んでください。

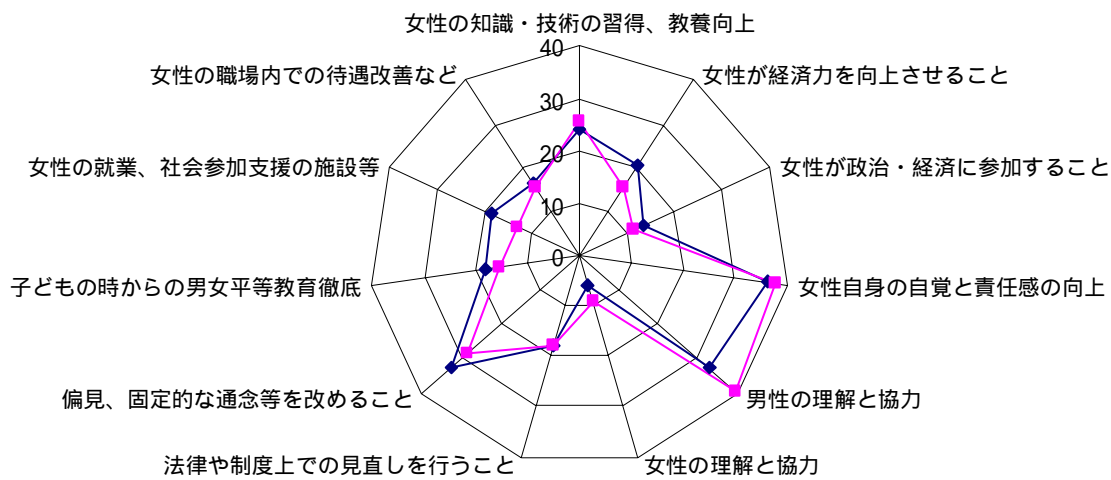
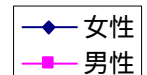
- 1 女性が知識・技術を習得したり、教養を向上させたりすること
- 2 女性が自身の経済力を向上させること
- 3 女性が政治・経済に参加すること
- 4 女性自身の自覚と責任感の向上
- 5 男性の理解と協力
- 6 女性の理解と協力
- 7 法律や制度上での見直しを行い、男女差別につながるものを改めること
- 8 さまざまな偏見、固定的な社会通念や慣習・しきたりを改めること
- 9 子どもの時からの男女平等教育の徹底
- 10 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
- 11 女性の職場内での待遇改善・地位向上
- 12 その他 具体的に（ ）
- 13 わからない

	全体	女性の知識・技術の習得、教養の向上	女性の経済力の向上	女性の政治・経済への参加	女性の自覚と責任感の向上	男性の理解と協力	女性の理解と協力	法律や制度上での見直し	偏見や社会通念・慣習等を改める	男女平等教育の徹底
合計	773 100.0	190 24.6	142 18.4	98 12.7	285 36.9	273 35.3	57 7.4	137 17.7	238 30.8	129 16.7
女性	445 100.0	107 24.0	91 20.4	60 13.5	160 36.0	145 32.6	27 6.1	80 18.0	144 32.4	79 17.8
男性	312 100.0	80 25.6	49 15.7	36 11.5	118 37.8	122 39.1	29 9.3	56 17.9	88 28.2	48 15.4

就業等のための施設やサービスの充実	女性の職場での待遇改善・地位向上	その他	わからない	無回答
127 16.4	121 15.7	17 2.2	20 2.6	54 7.0
83 18.7	72 16.2	9 2.0	9 2.0	35 7.9
40 12.8	47 15.1	8 2.6	11 3.5	16 5.1



単位：%



全体では「女性自身の自覚と責任感の向上」(36.9%)が最も多く、僅差の第2位に「男性の理解と協力」(35.3%)が入っている。第3位は「さまざまな偏見、固定的な社会通念や慣習・しきたりを改めること」(30.8%)となっている。

### 【男女別】

女性では「女性自身の自覚と責任感の向上」が第1位で、2番めが「男性の理解と協力」であるのに対し、男性では1、2位の順序が入れ替わっており、お互いにまずは自分たち自身の側の努力が大切と考える傾向があることがうかがわれる。

いずれにせよ「自覚」や「意識」が非常に重要と考えていることが分かった。

女性・男性とも3番めに多い回答は「さまざまな偏見、固定的な社会通念や慣習・しきたりを改めること」(女性 32.4%、男性 28.2%)で共通している。

### 【前回調査との比較】

前回調査における類似の趣旨の質問として、「男女共同参画社会を推進していくため、行政はどんなことに力を入れていけばよいと思うか」という問いがあり、これに対する回答として「保育サービス・介護サービス、施設の充実」(46.4%)という選択肢の割合が最も高く、他を大きく引き離していた。

次いで「男女平等をめざした制度制定など」(28.4%)、「女性を政策決定の場に積極的に登用」(27.6%)などが挙げられていた。

### 【国の調査との比較】

\* 内閣府による調査の同趣旨の質問の結果を、参考に掲げておく。

単位：% (N = 3,561)

(国 [ 内閣府 ] 調査結果を切り貼り)

出典：男女共同参画社会に関する世論調査（平成14年7月）

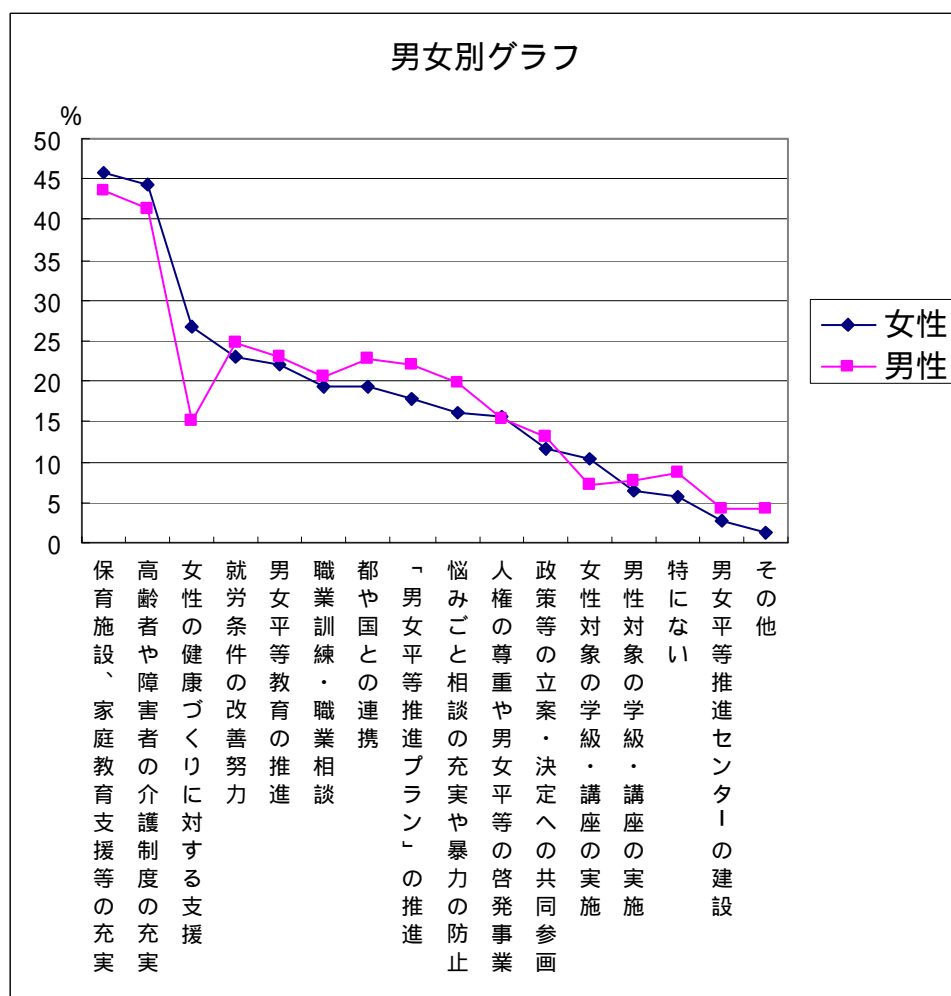
## 力を入れてほしい男女平等推進施策（問 46）

問 46 「男女平等社会の実現」に向けて、市に特に力を入れてほしい施策を下の 1～16 の中から **すべて** 選び、数字を で囲んでください。

- 1 『こまえ男女平等推進プラン』の推進やPR活動
- 2 女性対象の学級・講座の実施
- 3 男性対象の学級・講座の実施
- 4 「女性悩みごと相談」などの相談事業の充実やパートナーからの暴力の防止
- 5 保育所・学童保育施設の充実、家庭教育支援の充実
- 6 男女平等教育の推進
- 7 高齢者や障害者の介護制度の充実
- 8 女性の健康づくりに対する支援
- 9 政策等の立案・決定への共同参画の推進
- 10 就労条件の改善努力
- 11 職業訓練・職業相談
- 12 人権の尊重や男女平等理解にむけての啓発事業
- 13 男女平等推進センターの建設
- 14 都や国との連携
- 15 その他 具体的に（ ）
- 16 特にない

	全体	「こまえ男女平等推進プラン」推進	女性対象の学級・講座の実施	男性対象の学級・講座の実施	相談事業の充実、DVの防止	保育施設や家庭教育支援の充実	男女平等教育の推進	高齢者や障害者の介護制度の充実	女性の健康づくりに対する支援	政策立案・決定への共同参画推進
合計	773 100.0	150 19.4	68 8.8	53 6.9	134 17.3	353 45.7	172 22.3	342 44.2	169 21.9	95 12.3
女性	445 100.0	79 17.8	46 10.3	29 6.5	71 16.0	214 48.1	98 22.0	204 45.8	119 26.7	52 11.7
男性	312 100.0	69 22.1	22 7.1	24 7.7	62 19.9	136 43.6	72 23.1	129 41.3	47 15.1	41 13.1

就労条件の改善努力	職業訓練・職業相談	人権尊重等にむけての啓発事業	男女平等推進センターの建設	都や国との連携	その他	特にない	無回答
184 23.8	151 19.5	120 15.5	25 3.2	161 20.8	19 2.5	53 6.9	62 8.0
103 23.1	86 19.3	70 15.7	12 2.7	86 19.3	6 1.3	25 5.6	40 9.0
77 24.7	64 20.5	48 15.4	13 4.2	71 22.8	13 4.2	27 8.7	17 5.4



全体、女性・男性ともに、第1、2位は「保育所・学童保育施設、家庭教育支援の充実」、「高齢者や障害者の介護制度の充実」である。

女性では「女性の健康づくりに対する支援」のポイントがかなり高く、全体および男性の結果とは異なり、第3位にはこの選択肢が入っている（全体、男性の第3位は「就労条件の改善努力」）。

反対に、男性では女性に比べ「都や国との連携」、「『こまめ男女平等推進プラン』の推進やPR活動」、「相談事業の充実やパートナーからの暴力の防止」等を選んだ人の割合が大きい。

「『こまめ男女平等推進プラン』の推進やPR活動」は、女性では第8位、男性では第6位。

「男女平等推進センターの建設」を挙げた人は全体で3.2%いる（女性2.7%、男性4.2%）。

「特にない」は女性で5.6%、男性では8.7%。

【年齢別】

( \* 「その他」、「特にない」、無回答を除く )

	全体	「こまめ 男女平等 推進プラン」の推 進	女性対象 の学級・ 講座の実 施	男性対象 の学級・ 講座の実 施	相談事業 の充実、 DVの防 止	保育施設 や家庭教 育支援の 充実	男女平等 教育の推 進	高齢者や 障害者の 介護制度 の充実	女性の健 康づくり に対する 支援	政策立 案・決定 への共同 参画の推 進	就労条件 の改善努 力	職業訓 練・職業 相談	人権尊重 等にむけ ての啓発 事業	男女平等 推進セン ターの建 設	都や国と の連携
合計	773 100.0	150 19.4	68 8.8	53 6.9	134 17.3	353 45.7	172 22.3	342 44.2	169 21.9	95 12.3	184 23.8	151 19.5	120 15.5	25 3.2	161 20.8
20歳未満	11 100.0	0 0.0	0 0.0	1 9.1	2 18.2	3 27.3	2 18.2	4 36.4	4 36.4	1 9.1	5 45.5	4 36.4	3 27.3	0 0.0	6 54.5
20～24歳	31 100.0	2 6.5	1 3.2	3 9.7	4 12.9	13 41.9	4 12.9	13 41.9	3 9.7	2 6.5	9 29.0	9 29.0	2 6.5	2 6.5	5 16.1
25～29歳	52 100.0	5 9.6	4 7.7	3 5.8	9 17.3	30 57.7	13 25.0	23 44.2	14 26.9	8 15.4	16 30.8	15 28.8	4 7.7	3 5.8	14 26.9
30～34歳	72 100.0	10 13.9	11 15.3	6 8.3	16 22.2	48 66.7	16 22.2	22 30.6	18 25.0	4 5.6	19 26.4	22 30.6	9 12.5	1 1.4	16 22.2
35～39歳	71 100.0	9 12.7	4 5.6	2 2.8	19 26.8	44 62.0	9 12.7	22 31.0	14 19.7	6 8.5	14 19.7	8 11.3	10 14.1	0 0.0	12 16.9
40～44歳	51 100.0	4 7.8	3 5.9	4 7.8	13 25.5	26 51.0	6 11.8	21 41.2	8 15.7	2 3.9	9 17.6	11 21.6	5 9.8	2 3.9	11 21.6
45～49歳	54 100.0	6 11.1	3 5.6	2 3.7	8 14.8	19 35.2	13 24.1	27 50.0	11 20.4	10 18.5	19 35.2	14 25.9	5 9.3	2 3.7	11 20.4
50～54歳	68 100.0	13 19.1	5 7.4	9 13.2	12 17.6	33 48.5	17 25.0	27 39.7	18 26.5	9 13.2	25 36.8	16 23.5	11 16.2	1 1.5	18 26.5
55～59歳	100 100.0	20 20.0	10 10.0	7 7.0	11 11.0	48 48.0	27 27.0	52 52.0	21 21.0	20 20.0	19 19.0	20 20.0	19 19.0	3 3.0	18 18.0
60～64歳	89 100.0	24 27.0	7 7.9	6 6.7	14 15.7	34 38.2	17 19.1	44 49.4	18 20.2	6 6.7	15 16.9	10 11.2	18 20.2	3 3.4	14 15.7
65～69歳	79 100.0	30 38.0	10 12.7	4 5.1	9 11.4	28 35.4	21 26.6	34 43.0	14 17.7	14 17.7	18 22.8	10 12.7	17 21.5	2 2.5	19 24.1
70歳以上	88 100.0	24 27.3	9 10.2	5 5.7	15 17.0	26 29.5	25 28.4	49 55.7	23 26.1	11 12.5	14 15.9	10 11.4	15 17.0	5 5.7	13 14.8

「高齢者や障害者の介護制度の充実」は、55～59歳と70歳以上の人でポイントが高く、半数を超えている。

「保育施設や家庭教育支援の充実」は、25歳から44歳の人でポイントが高くなっている。

## 【前回調査との比較】

前回調査の結果は、下の表のとおりであった。

女性センターの開設	女性	11.3%
	男性	6.7%
学校における男女平等教育の推進	女性	16.7%
	男性	15.1%
女性問題に関する啓発活動の充実	女性	10.6%
	男性	9.7%
女性自立に関する講座や学級の充実	女性	24.1%
	男性	18.7%
男性に対する意識啓発	女性	18.1%
	男性	12.7%
福祉、健康、労働などの相談事業	女性	25.7%
	男性	28.8%
女性が働きやすい環境の整備	女性	45.4%
	男性	34.8%
審議会等への女性の積極的な登用	女性	27.1%
	男性	20.1%
地域活動やボランティア活動の促進	女性	15.7%
	男性	13.7%
保育・高齢者等の福祉の充実	女性	52.3%
	男性	38.5%
都や国との連携	女性	18.3%
	男性	21.7%
特にない	女性	4.9%
	男性	9.0%
わからない	女性	12.5%
	男性	13.0%
その他	女性	0.9%
	男性	0.3%
不明	女性	5.3%
	男性	8.0%

前回調査では、女性・男性とも、第1位「保育・高齢者等の福祉の充実」、第2位「女性が働きやすい環境の整備」となっている。

今回の調査においても、上位の選択肢の指す具体的な内容（「高齢者や障害者の介護制度の充実」、「保育所・学童保育施設、家庭教育支援の充実」、「就労条件の改善努力」など）は変化していないことが分かる。

また「男女平等教育の推進」は女性・男性ともでその割合が増加している。

---

## 付属資料（年齢別、職業別クロス集計表）

登録番号(刊行物番号)H16-20

---

男女平等に関する市民意識・実態調査 調査結果報告書

---

平成 17 年 1 月

編集・発行

狛江市企画財政部企画調整課

〒201-8585 東京都狛江市和泉本町一丁目 1 番 5 号

TEL.03-3430-1111(代表)

調査実施・制作

(株)アイ アール エス

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷五丁目 16 番 11 号

TEL.03-3357-7181(代表)

頒布価格

1,000 円